

糸魚川市地域公共交通網形成計画

資料編

(案)

平成 29 年 月

糸魚川市

目次

第1章 糸魚川市の現状分析	1
1. 計画の位置づけ（上位・関連計画）	1
2. 市の概況.....	6
（1）糸魚川市の成り立ち	6
（2）糸魚川市の地勢.....	6
（3）人口	7
（4）人口分布.....	10
（5）市内主要道路網	11
3. まちづくりをめぐる新たな動き（糸魚川市駅北大火）	12
（1）糸魚川市駅北大火	12
（2）糸魚川市駅北大火が及ぼすまちづくりへの影響	12
4. 公共交通の現状.....	14
（1）市内公共交通網	14
（2）鉄道	15
（3）バス	20
（4）公共交通の確保にかかる補助金額の推移	31
（5）公共交通利用促進事業等の状況.....	31
（6）交通関連施設・観光等・その他.....	32
5. 都市機能の分布状況	37
（1）医療施設.....	37
（2）商業施設等	38
（3）公共施設.....	40
（4）文化施設、スポーツ施設.....	42
（5）観光施設.....	44
6. 公共交通人口カバー率.....	46
7. 現況の総括	49
（1）市の概況.....	49
（2）まちづくりをめぐる新たな動き（糸魚川市駅北大火）	49
（3）市内公共交通網	49
（4）公共交通の確保にかかる補助金.....	50
（5）公共交通利用促進事業	51
（6）既存アンケート	51
（7）交通関連施設・観光等・その他.....	51
（8）公共交通人口カバー率	51
第2章 公共交通に関する市民意見	52
1. アンケート調査概要	52
（1）実施内容.....	52
（2）調査期間.....	52
（3）調査対象.....	52
（4）実施方法.....	53
（5）配布数・回収数・回収率.....	53
（6）集計結果の表記について.....	53
（7）アンケート調査結果の構成について	53
2. アンケート調査結果	54

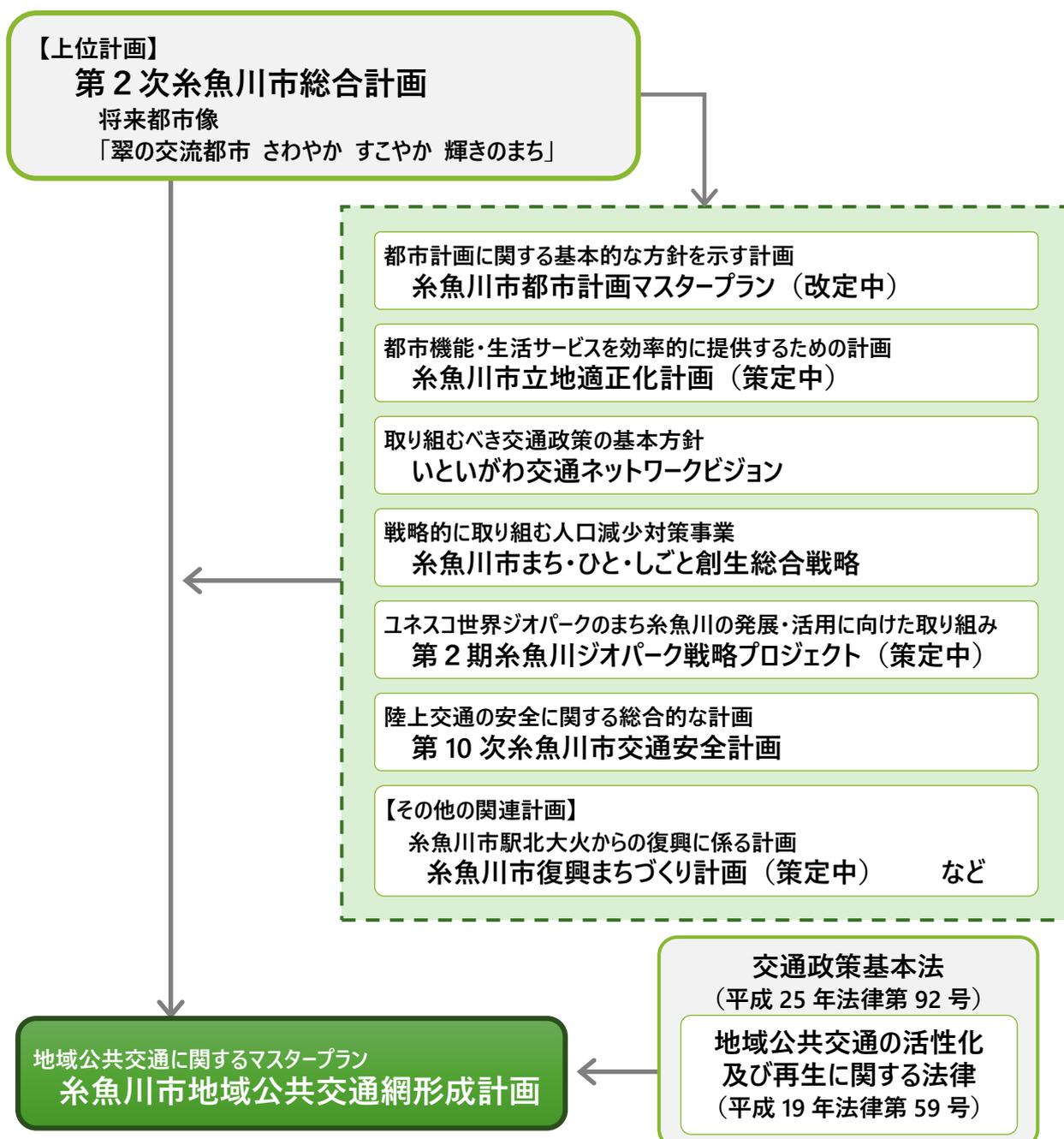
第3章 公共交通を取り巻く課題.....	96
（1）社会情勢の課題.....	96
（2）地域公共交通の現況からの課題.....	97
（3）アンケート結果からの課題.....	100

第1章 糸魚川市の現状分析

1. 計画の位置づけ（上位・関連計画）

糸魚川市地域公共交通網形成計画は、当市のまちづくりを進めていくための最上位計画で当市の各種計画や施策の基本となる「第2次糸魚川市総合計画」に基づくもので、目指す都市像「翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち」の実現に向け、地域公共交通と関わりの強い計画と連携・整合を図り、当市の地域公共交通に関する基本計画（マスタープラン）として策定する。

なお、本計画は、「交通政策基本法」の基本理念にのっとり一部改正された「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」を根拠法令とし策定するものである。



① 第2次糸魚川市総合計画（平成28年12月策定）

計画期間：平成29年度～平成35年度（7年間）

将来都市像「翠の交流都市 さわやか すこやか 輝きのまち」

基本計画

●第1章 子育て支援・教育分野

子育て支援充実のまち いといがわ
郷土愛にあふれ 夢をかなえるひとづくり

●第2章 健康福祉分野

安らぎ支えあいのまち いといがわ
健康で元気なひとづくり

●第3章 産業分野

資源循環で潤うまち いといがわ
にぎわいと活力のあるまちづくり

●第4章 土地利用・公共インフラ部門

生活基盤が整ったまち いといがわ
みんなが住みたいまちづくり

第1節 暮らしやすい生活圏の形成

機能的・効率的な生活圏の形成

- ①機能的・効率的な生活圏形成の推進
- ②都市計画マスタープランの見直し
- ③調和のとれた土地利用の推進

第2節 地域公共交通の確保

地域公共交通網の整備・利活用

- ①地域公共交通網形成計画の策定
- ②鉄道の利便性の向上と利用促進
- ③バス等の利便性・効率性の向上と利用促進

第3節 交通ネットワークの整備

第4節 快適な住環境の整備

●第5章 環境・防災・防犯分野

環境保護と防災対策の充実したまち いといがわ
人と自然にやさしいまちづくり

●第6章 地域づくり・市民活動・移住定住分野

市民活動が活発なまち いといがわ
地域が輝くまちづくり

② 糸魚川市都市計画マスタープラン（平成19年8月策定、現在改定中）

計画期間：平成19年度～（概ね20年後を見通すもの）

都市づくりのテーマ：自然・交流・元気・明日（みらい）に向けて輝くまち

都市づくりの目標

- 活力ある産業を創造するまちづくり
- 人にやさしく温かみのあるまちづくり
- 原風景を大切にすまちづくり

都市づくりを実現するための分野別の基本方針

●道路・交通体系整備

・公共交通体系

《鉄道》

- ・北陸新幹線、JR北陸本線（並行在来線）^(※)、JR大糸線及びバス交通については、本市の公共交通体系として位置づけ、コンパクトなまちづくりにあって円滑な移動に資する交通手段として利用促進を図ります。

《基幹バス、循環バス》

- ・バス交通空白地域の解消やJR北陸本線（並行在来線）^(※)及びJR大糸線の各駅における交通結節機能を強化するための施設整備を推進する他、必要に応じてバス停の配置を含めたバス交通網の再編を進めます。
- ・主要なバス停周辺においては、パーク・アンド・バスライド、サイクル・アンド・バスライド駐車場の整備について検討します。

(※) は策定時の記述のまま引用した。

③ 糸魚川市立地適正化計画（現在策定中）

基本的な考え方：

- 医療、福祉、商業等の都市機能サービスを効率的に提供するための将来的な都市機能の集約、誘導
- 生活サービスやコミュニティを持続的に確保するための長期的視野に立った居住の誘導
- これらの区域を密接に繋ぎ、安全かつ快適で持続可能な生活環境を確保するための公共交通ネットワークの形成

④ いたいがわ交通ネットワークビジョン（平成19年3月策定・平成25年3月見直し）

計画期間：平成19年度～平成38年度（20年間）

※平成25年3月見直し…世界ジオパーク認定及び北陸新幹線糸魚川駅開業に伴うもの

目標と将来像、基本方針

- ・目標 「ひと」・「もの」の交流促進による「産業の活性化」と「安心な暮らしの向上」
- ・将来像
 - 広域都市間から市内地区間まで、「ひと」・「もの」の交流が盛んになり、産業の活性化に資する交通ネットワーク
 - 商業、観光面において、糸魚川市の魅力を活かせる交通ネットワーク
 - 「ひと」・「もの」が移動しやすく、安心（安全で便利で快適）な暮らしができる交通ネットワーク
- ・基本方針
 - 十字型経済圏形成の拠点として、日本海国土軸及び都市間連携軸を活かした、交流促進による産業の活性化
 - ・三大都市圏及び環日本海交流圏との「ひと」・「もの」の広域交流の拡大と、地域の魅力発信を図るため、都市間連携軸の整備を進める。
 - ・北陸、長野、新潟、日本海を十字型に結ぶ物流・交流拠点としての機能強化を進める。
 - ・産業の活性化を図るため、日本海国土軸の有効活用を進める。
 - 都市内連携軸を活かした、効率的で便利なまちづくり
 - ・既成市街地と各集落及び集落間の連携強化による地域の一体化と、効率的な都市活動の実現を図るため、都市内連携軸の整備を進める。
 - ・安定した物流による経済活動の活発化を図るため、物流ネットワークを構築する。
 - ・公共施設等の利便性向上を図るため、施設へのアクセスを強化する。
 - 世界ジオパークのまちとして、都市間及び都市内連携軸の強化による交流人口の拡大
 - ・来訪者の利便性向上を図るため、各地に点在する観光地やジオサイトへのアクセスを強化する。
 - ・市外との交流人口拡大を図るため、都市間連携軸の強化や公共交通機関の利便性向上を図る。
 - ・来訪者の満足度を高めるため、おもてなしの心を重視した情報発信及び案内標識等の整備を進める。
 - 誰もが快適・安全に利用できる、道路と公共交通網の整備
 - ・安全で便利で快適な日常生活の実現を図るため、バリアフリーに配慮した良好な生活道路網を整備する。
 - ・誰もが快適で安全に移動ができるまちづくりを図るため、利用しやすい便利な公共交通網を確保する。
 - ・緊急時及び災害時における交通の確保を図るため、災害に強い交通網を構築する。
 - ・市民生活を支援し地区間相互の連携強化を図るため、公共交通網を整備する。
 - ・安全で円滑な交通の確保を図るため、情報の提供と安全対策を充実させるとともに、道路施設においては老朽化対策等の適切な維持管理を進める。

⑤ 糸魚川市まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年10月策定・平成28年4月1日改訂）

計画期間：平成27年度～平成31年度（5年間）

基本目標

- I（か）稼げる資源循環のまちづくり
- II（ち）地域を担う人財が集うまちづくり
- III（ゆ）夢を叶えて若者や女性が輝くまちづくり
- IV（く）暮らしやすさで安心・元気なまちづくり

基本施策・個別施策

3 持続可能なまちづくりの推進

（2）地域公共交通網の整備

個別施策

・路線バスやコミュニティバス、鉄道などの交通手段を組み合わせ、誰もが利用しやすく持続可能な公共交通を確保します。

⑥ 第2期糸魚川ジオパーク戦略プロジェクト（現在策定中）

計画期間：平成29年度～平成33年度（5年間）

基本理念：「世界ジオパークのまち糸魚川」のオンリーワンをみんなで輝かせよう

基本方針：「保護・保全」、「教育・防災」、「地域振興」、「事業推進」

⑦ 第10次糸魚川市交通安全計画（平成29年3月策定）

計画期間：平成29年度～平成32年度（4年間）

目 標：平成32年までに年間の交通事故死者数をゼロとすることを旨とする。

分野別施策：

第1節 道路交通環境の整備5 公共交通機関の利用促進（1）公共交通機関の利便性向上と利用促進

⑧ 糸魚川市復興まちづくり計画（現在策定中）

基本的な考え方：

- 安心して暮らせるまちづくり
- 住民の生活再建と事業者の事業再開への支援
- 商業の振興
- 地域コミュニティの再生
- 早期の復興に向けた取組

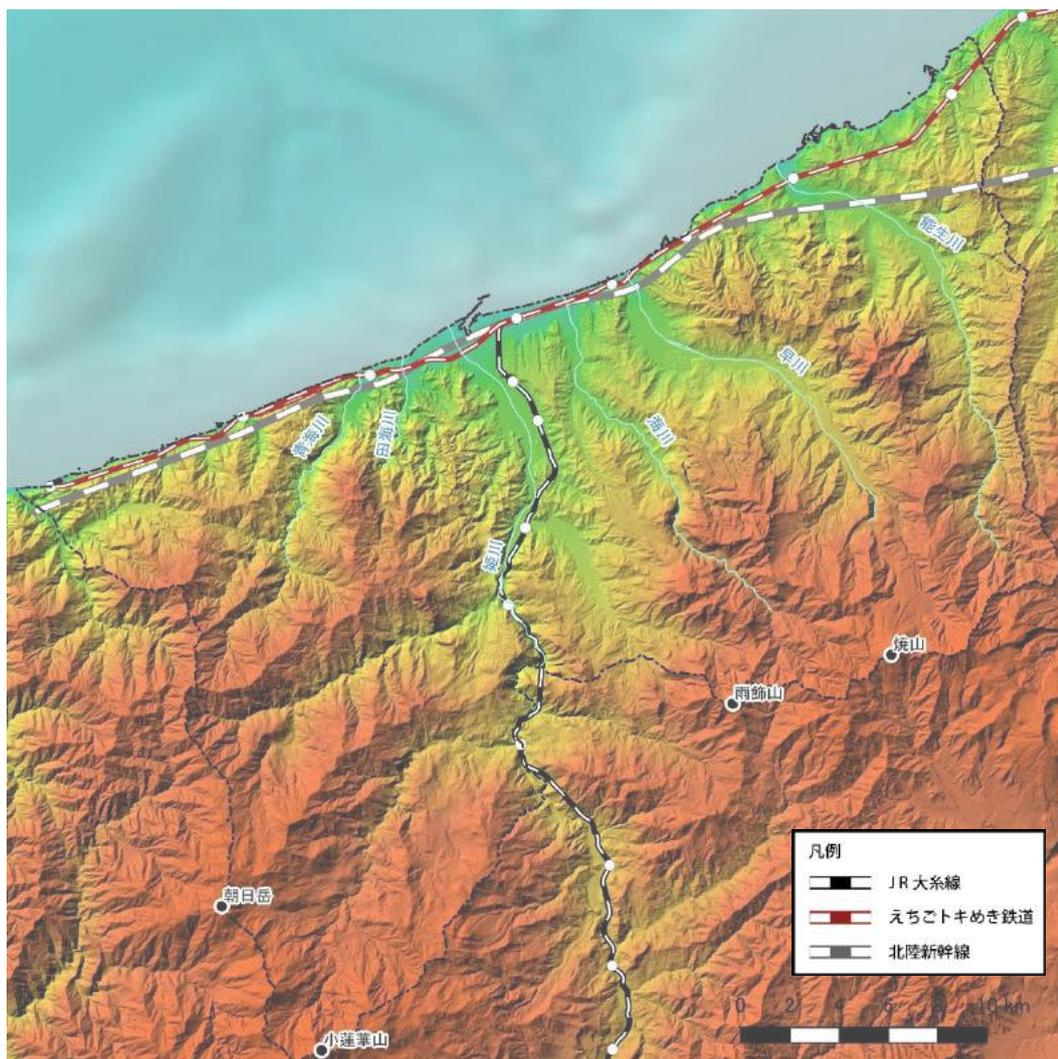
2. 市の概況

(1) 糸魚川市の成り立ち

- ・糸魚川市は平成17年3月19日に旧能生町、旧糸魚川市、旧青海町が合併し誕生した。
- ・現在糸魚川市は、過疎・辺地・特別豪雪地帯等に指定されている。

(2) 糸魚川市の地勢

- ・糸魚川市は新潟県の最西端に位置している。北は日本海に面し、東は上越市、西は富山県朝日町、南は長野県小谷村と接している。
- ・海拔0m～3000m級の山々を擁するユネスコ世界ジオパークのまちであり、地形の変化に富んでいる。
- ・面積は746.24km²と広大で新潟県総面積の5.9%を占めている。土地利用は市域の約94.3%が山林等であり、宅地は市域の約1.4%程度である。
- ・南は焼山、雨飾山等の頸城連峰や朝日岳、小蓮華山等の北アルプスが連なる。谷々には能生川、早川、海川、姫川、田海川、青海川及びその支流が流れている。流域や河口部に集落や市街地が形成されている。



図：糸魚川市地形図
(出典：地理院タイル「色別標高図」に加筆)

(3) 人口

① 人口と世帯数

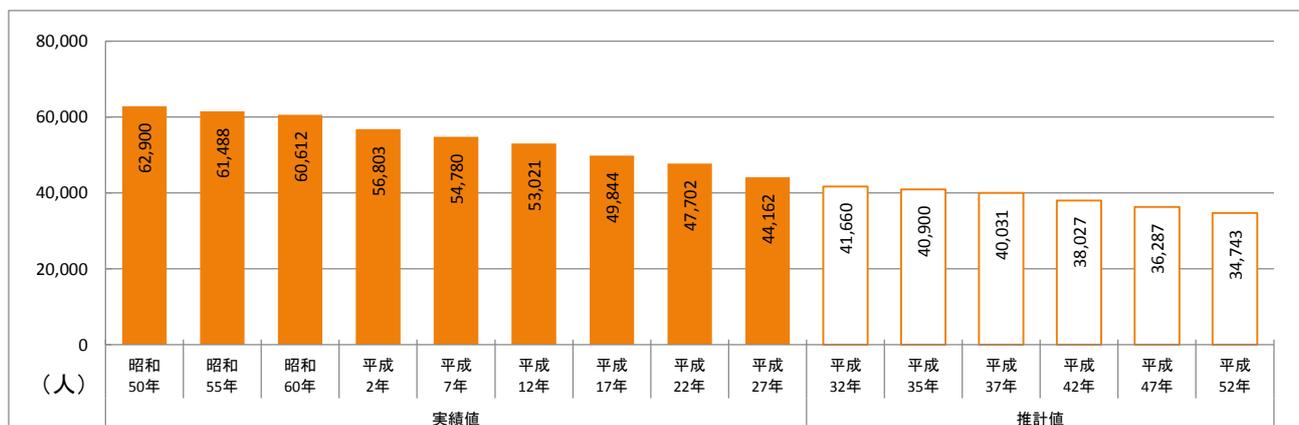
- ・市内は旧市町単位で能生地域、糸魚川地域、青海地域に区分されている。
- ・平成27年国勢調査速報値による人口は、市全体で44,162人、能生地域8,542人、糸魚川地域27,288人、青海地域8,332人である。糸魚川市の新潟県全体に占める人口の割合は1.92%である。
- ・人口密度は能生地域56.8人/km²、糸魚川地域58.5人/km²、青海地域64.5人/km²である。市全体の人口密度は59.2人/km²であり、県全体の人口密度183.1人/km²よりも低い。
- ・前回調査（平成22年）との増減をみると、すべての地域で人口が減少している。世帯数についても同様に新潟県全体では増加しているが、糸魚川市内すべての地域で減少している。
- ・地域別では3地域の中で最も人口が多いのは糸魚川地域である。
- ・前回の国勢調査と比較して、人口減少率が最も大きいのは能生地区で8.32%である。
- ・住民基本台帳による平成28年4月1日の糸魚川市の総人口は能生地域8,724人、糸魚川地域27,577人、青海地域8,468人、合計44,769人である。65歳以上の高齢者は、能生地域38.7%、糸魚川地域36.1%、青海地域38.2%、市全体では37.0%であり、高齢化が進んでいる。

表：糸魚川市人口
(出典：平成27年国勢調査)

地域名	総数 (人)	男 (人)	女 (人)	世帯数 (世帯)	世帯当たり 人員 (人/世帯)	面積 (km ²)	人口 密度 (人/km ²)	平成22年～平成27年 人口増減		人口 構成比 (県対) (%)
								人口 (上段：人) (下段：%)	世帯 (上段：世帯) (下段：%)	
県合計	2,304,264	1,115,413	1,188,851	848,150	2.72	12,584.1	183.1	-70,186 -2.96	9,111 1.09	100.0
市合計	44,162	21,538	22,624	16,699	2.64	746.24	59.2	-3,540 -7.42	-734 -4.21	1.92
能生	8,542	4,188	4,354	3,002	2.85	150.49	56.8	-775 -8.32	-91 -2.94	0.37
糸魚川	27,288	13,343	13,945	10,485	2.60	466.62	58.5	-2,083 -7.09	-552 -5.00	1.18
青海	8,332	4,007	4,325	3,212	2.59	129.13	64.5	-682 -7.57	-91 -2.76	0.36

② 人口推移

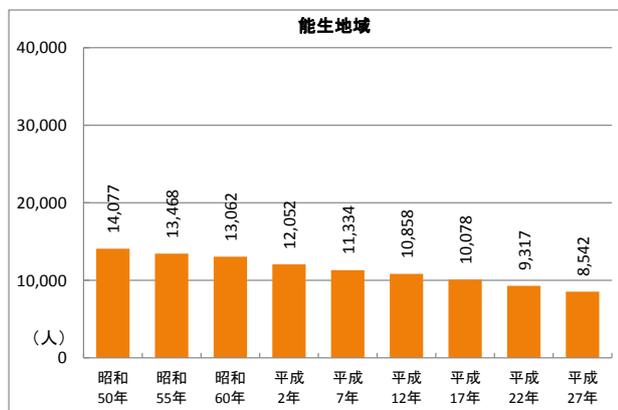
- ・市の人口は昭和50年以降減少しており、平成27年国勢調査では44,162人となっている。
- ・第2次総合計画に基づく目標人口は平成35年に40,900人とし、平成27年から平成35年までの8年間で3,262人、7.4%の減少と推計している。
- ・この推計に基づきさらに推計すると、平成52年には34,743人となり、平成27年から平成52年までの25年間で9,416人、21.3%の減少となる。



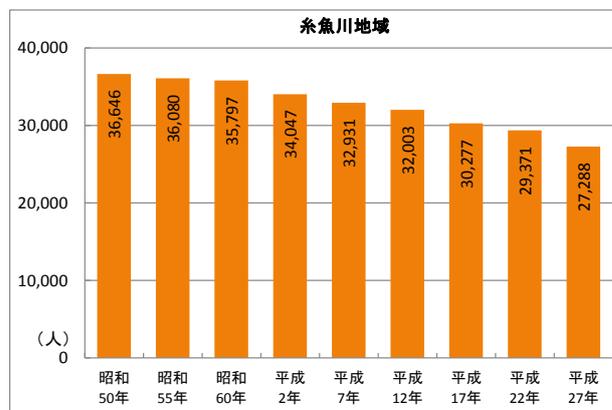
図：糸魚川市人口の推移及び将来推計
(出典：実績値/国勢調査 推計値/第2次糸魚川市総合計画に基づく目標人口)

③ 地域別人口

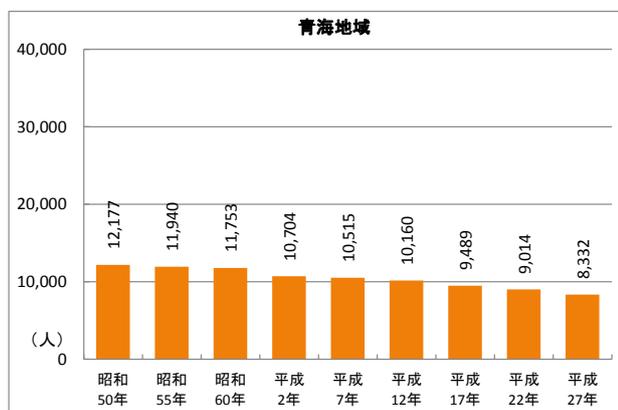
- ・3地域別の人口をみると、すべての地域で人口が減少傾向となっている。



図：能生地域人口実績
(出典：国勢調査)



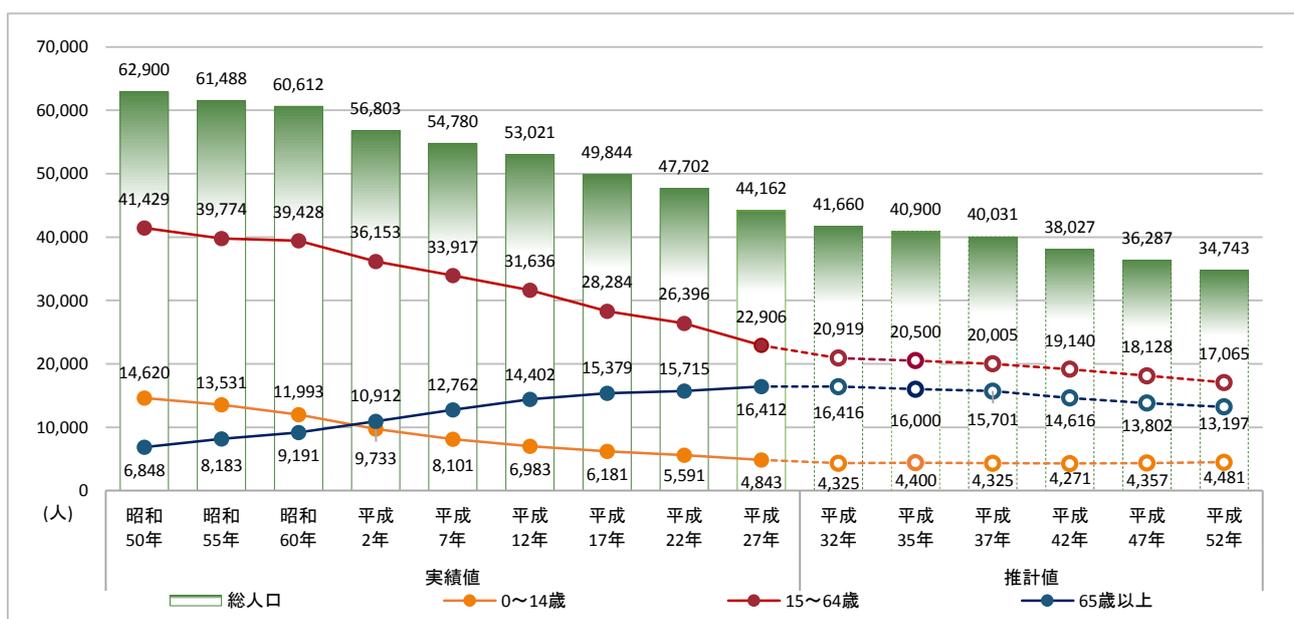
図：糸魚川地域人口実績
(出典：国勢調査)



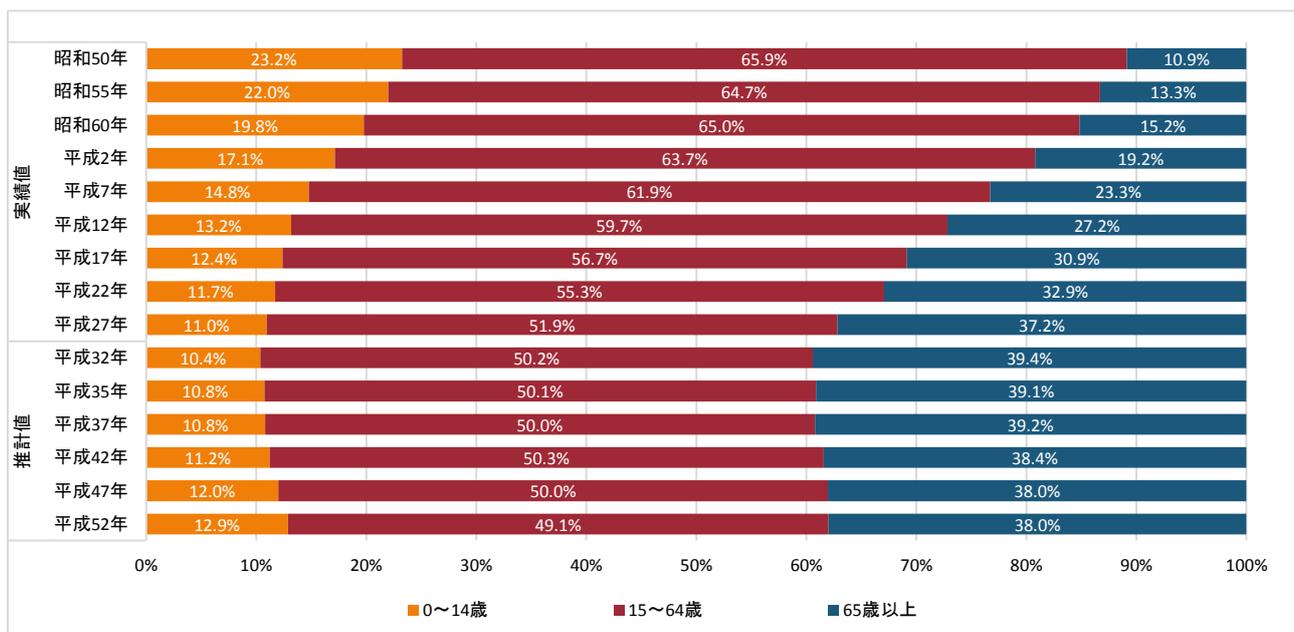
図：青海地域人口実績
(出典：国勢調査)

④ 年齢3区分別の人口推移と人口構成

- ・市全体では、0～14歳の年少人口及び15～64歳の生産年齢人口は継続して減少傾向にある。第2次総合計画に基づく人口推計では、65歳以上の老年人口は平成32年の16,416人を増加のピークとして、以降平成52年までに13,197人に減少すると推計している。
- ・年少人口は平成2年から老年人口よりも少なくなり平成42年に減少のピークを迎える。平成47年以降から増加に転じると推計している。
- ・市内の人口構成比をみると、平成52年の時点では総人口の38.0%が老年人口になる見込みである。65歳以上の高齢化率は平成7年より増加し平成17年に30%を超えている。高齢化率は平成32年に総人口の39.4%に達した以降、減少傾向となる。



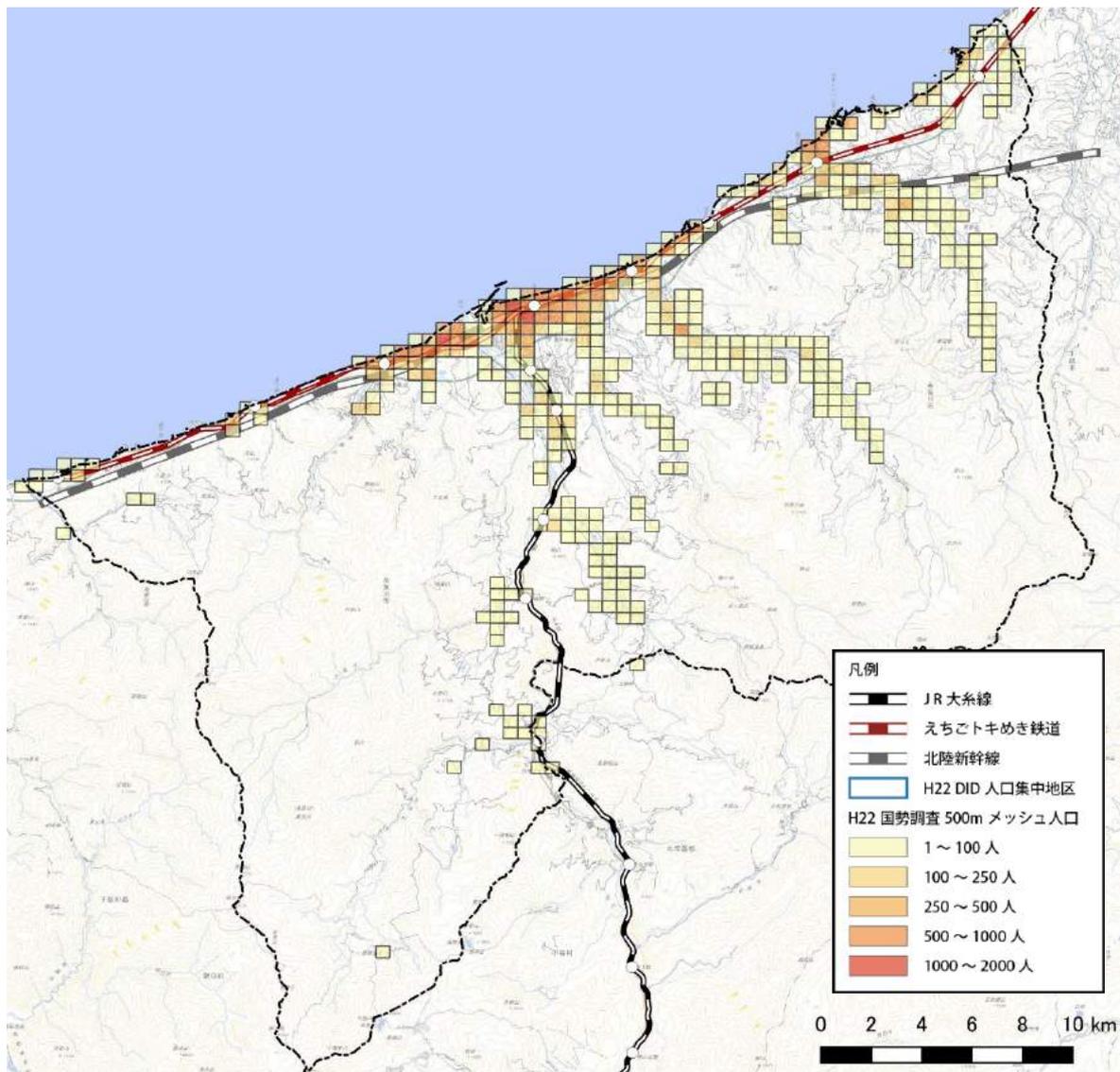
図：年齢3区分別の人口推移
(出典：実績値/国勢調査 推計値/第2次糸魚川市総合計画に基づく目標人口)



図：年齢3区分別の人口構成推移
(出典：実績値/国勢調査 推計値/第2次糸魚川市総合計画に基づく目標人口)

(4) 人口分布

- ・糸魚川市内では、えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン沿線及び国道 8 号線沿線にあたる日本海沿岸の平野部に人口が集中するほか、南に向かって伸びる谷筋に人口が分布する。
- ・都市的地域の広がりを示す指標である DID 地区（人口集中地区）は、糸魚川駅周辺や青海駅周辺の用途地域に広がる。
- ・山間部や市街地から外れた海岸部は、人口が低密な地域が広がる。



図：市内における人口分布の状況
(出典：国勢調査)

(5) 市内主要道路網

- ・市内の主要道路網として市の北側、日本海沿いを国道8号が横断し、一級河川姫川沿いに国道148号が縦断しており、当市と近隣市町村を結ぶ路線として重要な役割を果たしている。
- ・国道8号から主要河川沿いや谷筋沿いに県道、市道が走っており、生活道路として住民に欠かすことのできない路線となっている。
- ・昭和63年から整備を進めてきた都市計画道路中央大通り線が平成26年12月に全線開通し、国道148号と結節した。
- ・国道8号とえちごトキめき鉄道日本海ひすいライン、国道148号とJR大糸線が並走している。



図：市内主要道路
(出典：いといがわ交通ネットワークビジョン 平成25年見直し)

3. まちづくりをめぐる新たな動き（糸魚川市駅北大火）

（1）糸魚川市駅北大火

●糸魚川市駅北大火の概要

平成28年12月22日に発生した「糸魚川市駅北大火」は、国内では過去20年で最悪の延焼火災となった。商業施設をはじめとする都市機能や周辺の居住機能を喪失し、糸魚川市の中心市街地に多大な被害をもたらし、多くの市民が被災した。（平成29年1月31日現在）

- ・焼失面積：約40,000㎡
- ・焼損棟数：147棟（全焼120棟、半焼5棟、部分焼22棟）
- ・被災者：120世帯、224人
- ・被災事業者：55事業所

●過去の大火

被災地区周辺では、これまでも強風を伴った大火に見舞われており、昭和以降だけでも昭和3年に105棟、昭和7年に368棟、昭和29年に42棟を全焼する火災が発生している。

●糸魚川市駅北大火の被災地区

被災地区は、市の中心市街地であるとともに、雁木に代表される街並み等、歴史的風情を色濃く残すまちであり、観光や商業等の地域資源の場であるとともに、「まちなか」として市民のシンボリックな地区であった。

（2）糸魚川市駅北大火が及ぼすまちづくりへの影響

●まちの復興に向けた計画づくり

このような状況をふまえ、被災地区の復旧と復興にあたっては、住民や事業者との合意形成を図りながら、火災に強いまちを第一として、中心市街地として賑わいのあるまち、人口減少と高齢化に対応するまちを実現するため、「糸魚川市復興まちづくり計画」を策定する。

<計画の基本的な考え方>

- ①安心して暮らせるまちづくり
- ②住民の生活再建と事業者の事業再開への支援
- ③商業の振興
- ④地域コミュニティの再生
- ⑤早期の復興に向けた取組

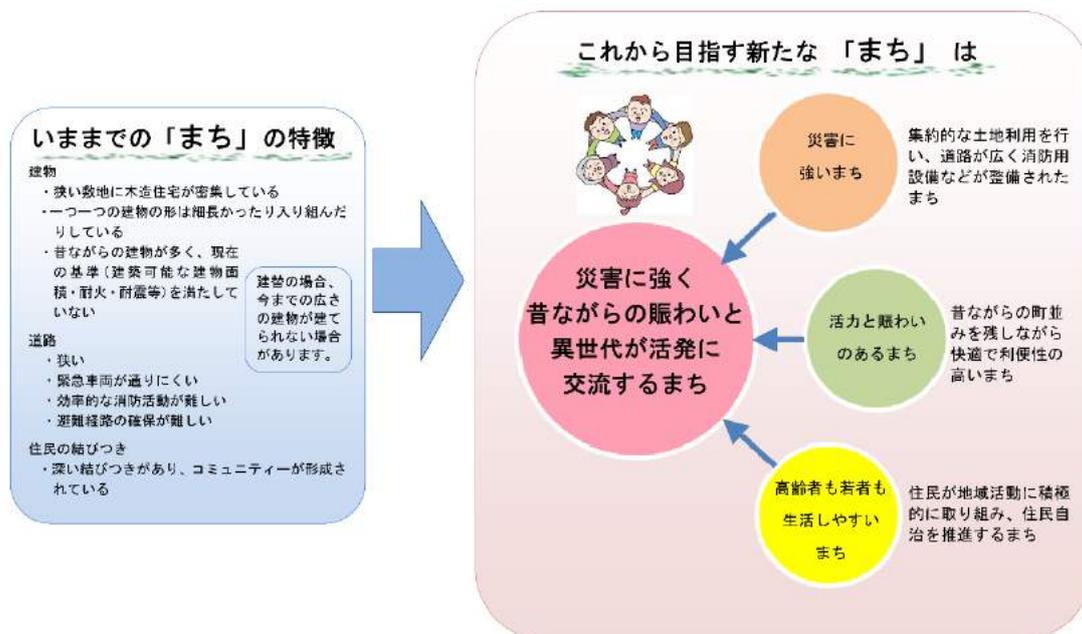
●都市計画マスタープラン及び立地適正化計画（策定中）への影響

現在、市では都市計画マスタープランの改定作業及び立地適正化計画の策定作業を進めているところだが、前述の糸魚川市駅北大火復興まちづくり計画などとの整合を図る必要があることから、当初、平成28年度～29年度の2か年での策定予定の見直しも必要となっている。

●地域公共交通網形成計画への影響

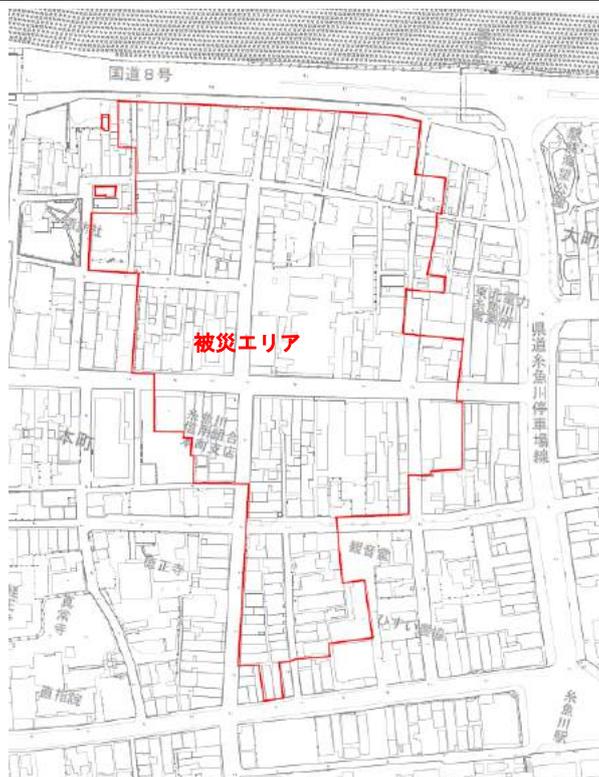
地域公共交通網形成計画は、都市計画マスタープラン及び立地適正化計画との連携が必要であるため、これらの改定・策定内容により見直しが必要な場合は、適宜見直すこととする。

●復興に向けたまちづくりの考え方（抜粋）



図：復興に向けたまちづくりの考え方
(出典：市資料)

●糸魚川市駅北大火 被災エリア図

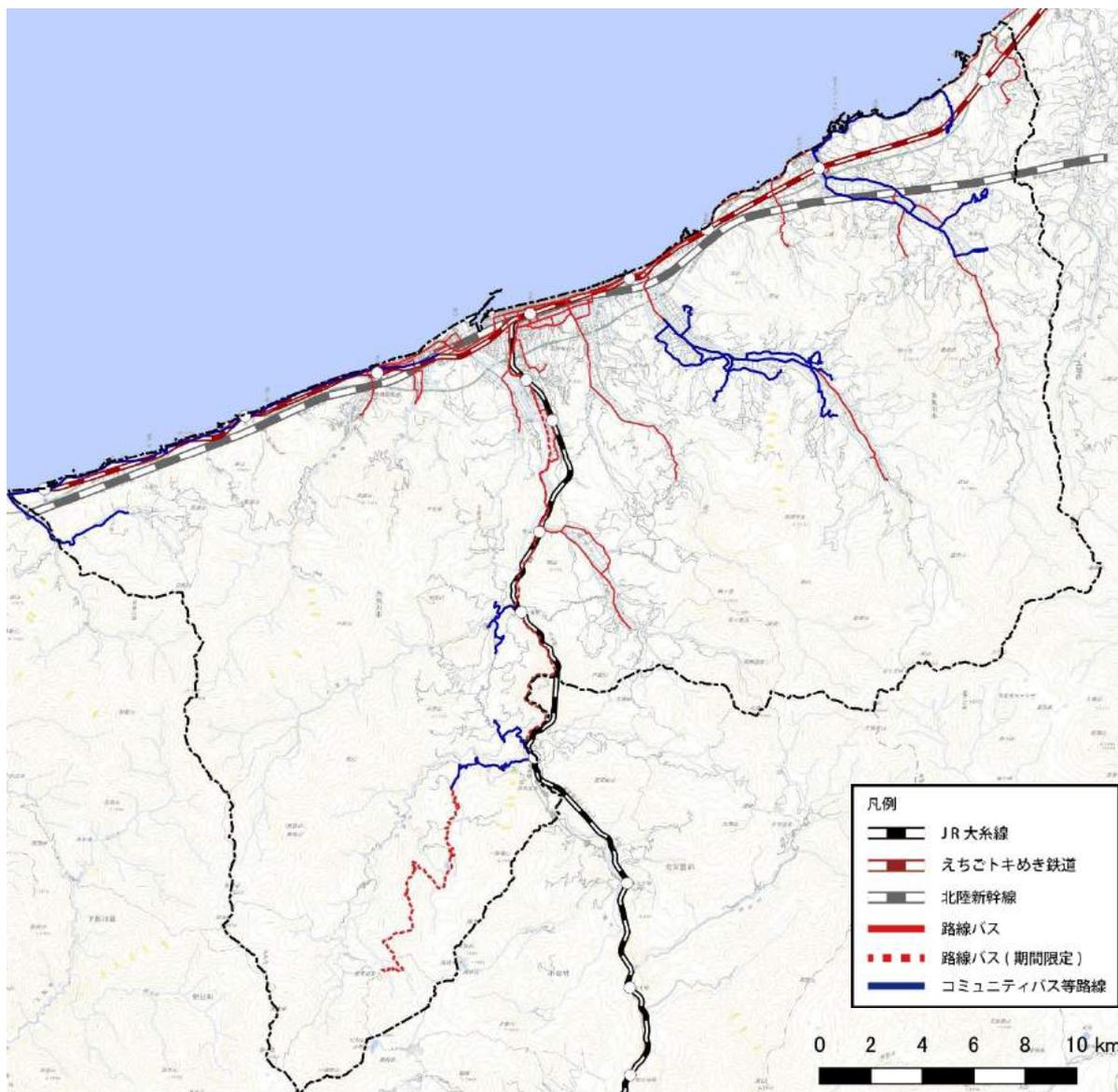


図：糸魚川市駅北大火 被災エリア図
(出典：市災害対策本部資料)

4. 公共交通の現状

(1) 市内公共交通網

- ・平成 27 年 3 月 14 日、北陸新幹線長野・金沢間開業により、北陸新幹線糸魚川駅が開業した。同時に市内を通る北陸本線は J R から経営分離され、日本海ひすいラインとしてえちごトキめき鉄道株式会社へ経営移管された。
- ・市内にはえちごトキめき鉄道日本海ひすいラインと J R 大糸線の在来線が通っており、能生地域 2 駅、糸魚川地域 8 駅、青海地域 3 駅の合計 13 駅がある。
- ・路線バスは糸魚川駅や糸魚川総合病院等の市内の各拠点から各地域へ運行しているため、糸魚川市街地では複数の路線が重複している。
- ・コミュニティバス・乗合タクシーは、鉄道や路線バスが行き届かない地域や中山間地域等を運行し、地域の医療施設の受診や日用品の買い物等に向かうための生活の足となっている。



図：平成 28 年度 市内公共交通網
(出典：市 HP 各運行事業者バス路線図)

(2) 鉄道

① 主要駅における鉄道運行状況

- ・えちごトキめき鉄道日本海ひすいラインと JR 大糸線との乗り継ぎ駅である糸魚川駅では1日あたり48本、能生駅では1日あたり40本、青海駅では1日あたり38本の列車が発着している。
- ・北陸新幹線糸魚川駅では、停車タイプの「はくたか」が1日あたり30本発着している。
- ・糸魚川駅からは1日1本、新潟駅行きの快速列車が運行していたが、平成29年3月ダイヤ改正をもって運行取りやめとなった。
- ・平成28年より観光列車「雪月花」が糸魚川－妙高高原間を運行している。

能生駅路線別運行本数

表：能生駅路線別運行本数
(出典：各運行事業者時刻表)

駅名	路線名			種別	運行本数		運行時間帯	
					平日	休日	平日	休日
能生駅	えちごトキめき鉄道 日本海ひすいライン	直江津・新潟方面	直江津行	普通	18本/日	18本/日	6時台～23時台	6時台～23時台
				快速	1本/日	1本/日	10時台	10時台
			新潟行	普通	—	—	—	—
				快速	1本/日	1本/日	8時台	8時台
		市振・泊方面	泊行	普通	14本/日	14本/日	5時台～20時台	5時台～20時台
				快速	1本/日	1本/日	22時台	22時台
			糸魚川行	普通	4本/日	4本/日	7時台～23時台	7時台～23時台
				快速	1本/日	1本/日	20時台	20時台

えちごトキめき鉄道株式会社：平成28年3月26日 改正

糸魚川駅路線別運行本数

表：糸魚川駅路線別運行本数
(出典：各運行事業者時刻表)

駅名	路線名			種別	運行本数		運行時間帯		
					平日	休日	平日	休日	
糸魚川駅	北陸新幹線	東京方面	東京行	はくたか	14本/日	14本/日	7時台～21時台	7時台～21時台	
			長野行	はくたか	1本/日	1本/日	22時台	22時台	
		金沢方面	金沢行	はくたか	15本/日	15本/日	6時台～22時台	6時台～22時台	
			JR大糸線	南小谷方面	南小谷行	普通	7本/日	7本/日	6時台～20時台
	平岩行	普通	2本/日		2本/日	6時台、18時台	6時台、18時台		
	えちごトキめき鉄道 日本海ひすいライン	直江津・新潟方面	直江津行	普通	18本/日	18本/日	6時台～22時台	6時台～22時台	
				快速	1本/日	1本/日	10時台	10時台	
			新潟行	普通	—	—	—	—	
				快速	1本/日	1本/日	7時台	7時台	
			妙高高原行	観光	—	1本/日	—	14時台	
			市振・泊方面	泊行	普通	16本/日	16本/日	6時台～23時台	6時台～23時台
					快速	1本/日	1本/日	—	11時台、14時台
				高岡行	普通	1本/日	1本/日	7時台	7時台
	金沢行	普通		1本/日	1本/日	6時台	6時台		

西日本旅客鉄道株式会社：平成28年3月26日 改正
えちごトキめき鉄道株式会社：平成28年3月26日 改正

青海駅路線別運行本数

表：青海駅路線別運行本数
(出典：運行事業者時刻表)

駅名	路線名		種別	運行本数		運行時間帯		
				平日	休日	平日	休日	
青海駅	えちごトキめき鉄道 日本海ひすいライン	直江津・新潟方面	直江津行	普通	14本/日	14本/日	6時台～21時台	6時台～21時台
				快速	1本/日	1本/日	9時台	9時台
			糸魚川行	普通	4本/日	4本/日	19時台～23時台	19時台～23時台
				快速	1本/日	1本/日	22時台	22時台
		市振・泊方面	泊行	普通	16本/日	16本/日	5時台～21時台	5時台～21時台
				快速	1本/日	1本/日	22時台	22時台
			高岡行	普通	1本/日	1本/日	7時台	7時台
			金沢行	普通	1本/日	1本/日	6時台	6時台

えちごトキめき鉄道株式会社：平成28年3月26日 改正

平岩駅路線別運行本数

表：平岩駅路線別運行本数
(出典：運行事業者時刻表)

駅名	路線名		種別	運行本数		運行時間帯		
				平日	休日	平日	休日	
平岩駅	JR大系線	糸魚川方面	糸魚川行	普通	9本/日	9本/日	7時台～21時台	7時台～21時台
		南小谷方面	南小谷行	普通	7本/日	7本/日	6時台～20時台	6時台～20時台

西日本旅客鉄道株式会社：平成28年3月26日 改正

駅構造

- ・市内にあるえちごトキめき鉄道日本海ひすいラインの駅は地下駅、高架駅が多く、改札からホームまでに長い階段を利用する必要がある。エレベーターが設置されている駅舎は糸魚川駅のみである。
- ・市内にあるJR大系線の駅はすべて地上駅であり、改札からホームが直結している駅が多く2、3段の階段があるものの、比較的利用しやすい駅が多い。

■えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン

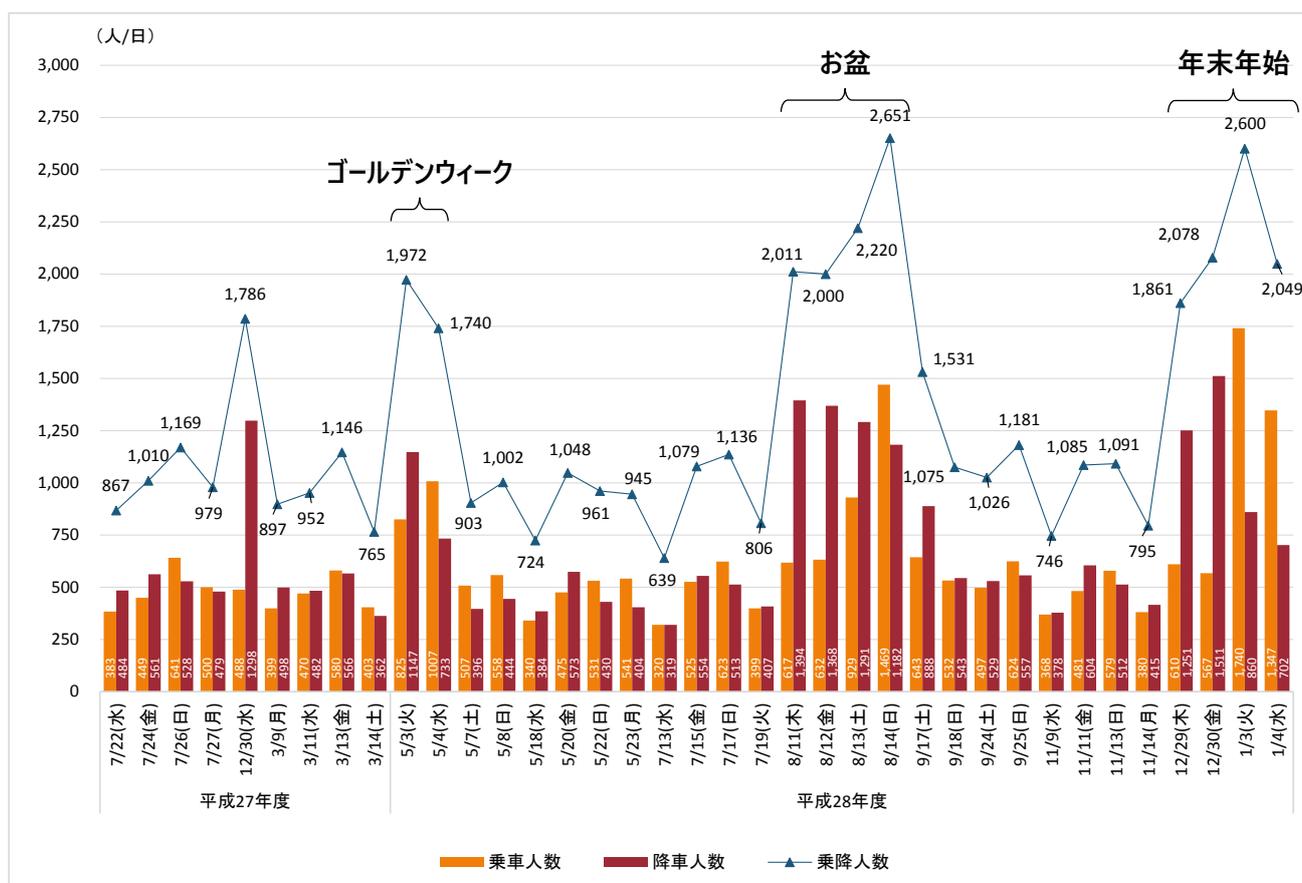
駅名	駅間キロ	接続路線	駅構造	ホーム構造	管理	有人・無人
筒石駅	7.5km	—	地下駅	2面2線	業務委託駅	有人
能生駅	5.1km	—	高架駅	2面4線	直営駅	有人
浦本駅	3.5km	—	高架駅	2面2線	—	無人
梶屋敷駅	4.3km	—	地上駅	2面3線	—	無人
糸魚川駅		JR西日本北陸新幹線、 JR西日本大系線	橋上駅	2面4線	直営駅	有人
青海駅	6.6km	—	橋上駅	2面4線	簡易委託駅	有人
親不知駅	5.3km	—	地上駅	1面2線	—	無人
市振駅	8.6km	あいの風とやま鉄道	地上駅	1面2線	—	無人

■JR大系線

駅名	駅間キロ	接続路線	駅構造	ホーム構造	管理	有人・無人
姫川駅	3.2km	—	地上駅	1面1線	—	無人
頸城大野駅	1.9km	—	地上駅	1面1線	—	無人
根知駅	4.9km	—	地上駅	2面2線	—	無人
小滝駅	3.6km	—	地上駅	1面1線	—	無人
平岩駅	6.8km	—	地上駅	1面1線	—	無人

② 北陸新幹線の利用状況

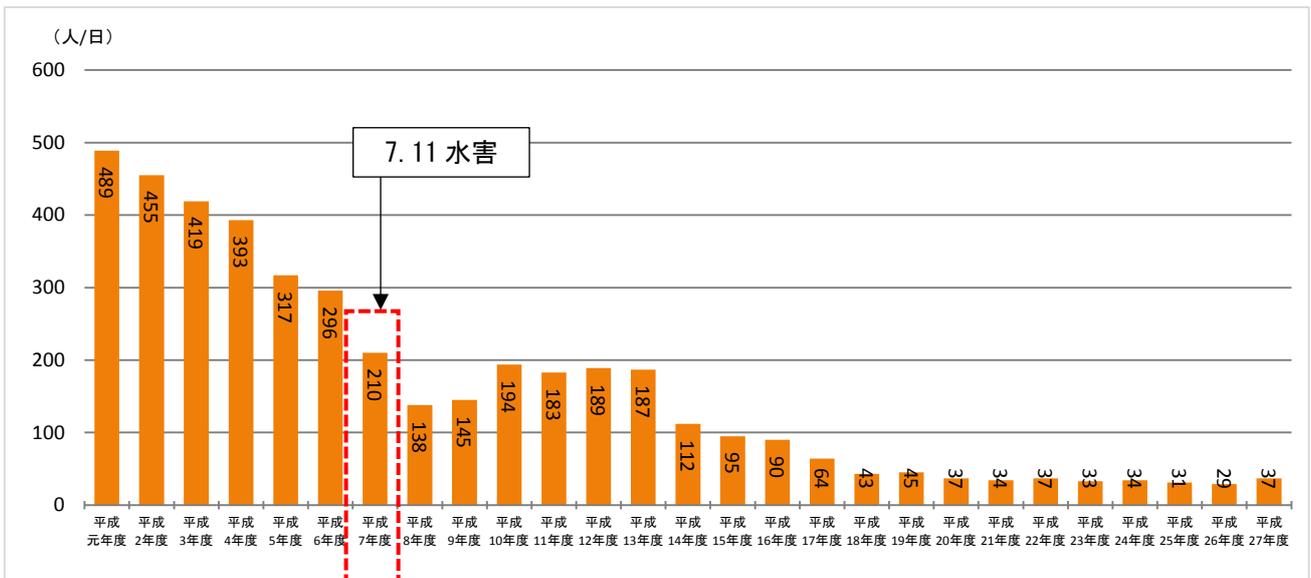
- ・北陸新幹線の乗降人数では、全体的に平日よりも休日の方が多い。
- ・ゴールデンウィーク及びお盆、年末年始期間中は他調査日と比較して乗降人数が多い。特に、ゴールデンウィーク中盤及びお盆後半、年始では乗車人数が多く、ゴールデンウィーク前半及びお盆前半、年末では降車人数が多い。北陸新幹線は主に帰省または観光の目的で利用されていると推察される。
- ・平成27年度、平成28年度における同時期の乗降人数を比較する。平成28年度の乗降人数は、7月では平成27年度よりも減少しているが12月では平成27年度より約800人増加している。特に12月の利用では降車人数が増加している。



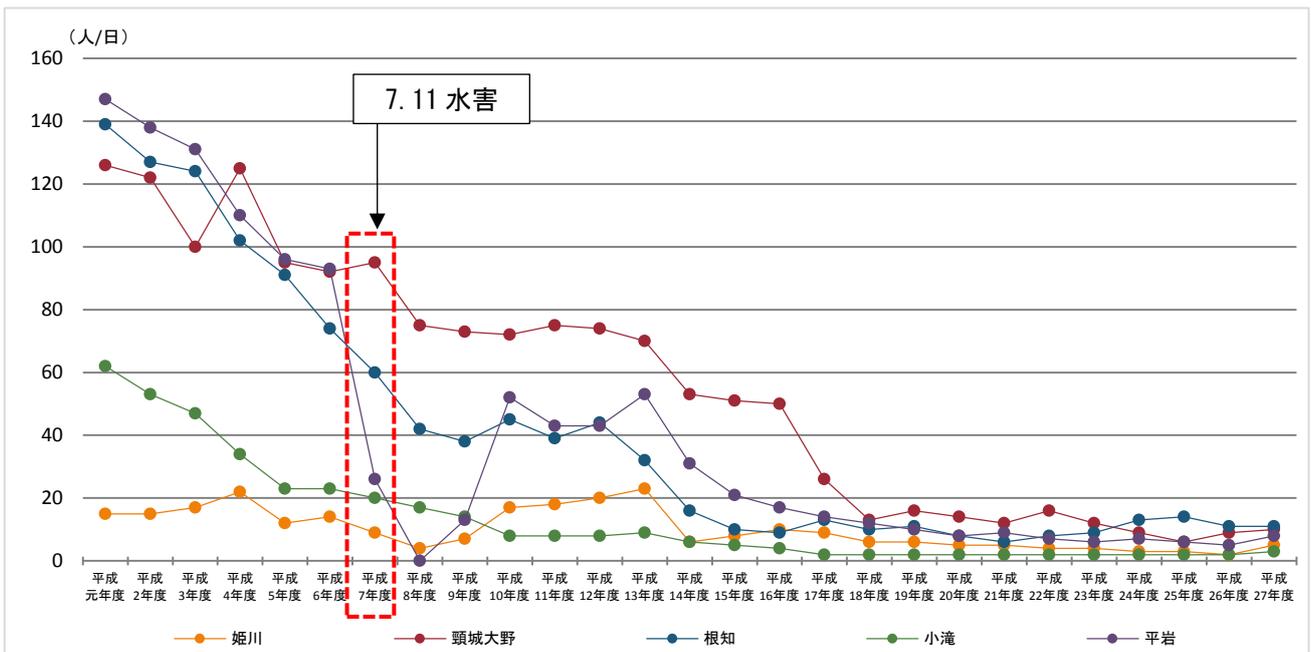
図：新幹線乗降人数 各調査日集計
(出典：市資料)

③ J R大糸線の利用状況

- ・平成元年度以降乗車人数が減少している。平成18年度からは減少が緩やかになり、30～40人程度で推移している。
- ・平成7年7月11日、関川流域及び姫川流域に甚大な被害をもたらした「7.11水害」によりJR大糸線は平成8年度～9年度にかけて一時的に乗車人数が減少している。平岩駅では平成8年度に乗車人数が0人となっている。
- ・頸城大野駅、根知駅、平岩駅では平成元年度には120人程度の利用があったが、平成27年度は20人以下まで減少している。
- ・各駅の乗車人数は一様に減少傾向にある。



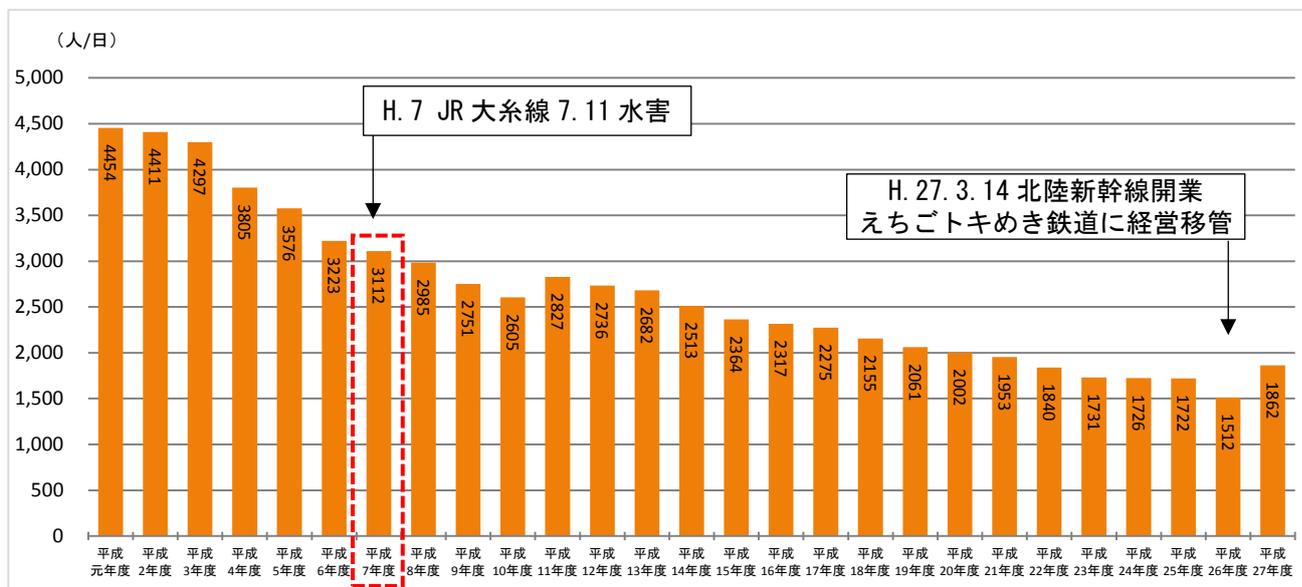
図：JR大糸線乗車人員推移（姫川～平岩の各駅の合計）
（出典：市統計要覧）



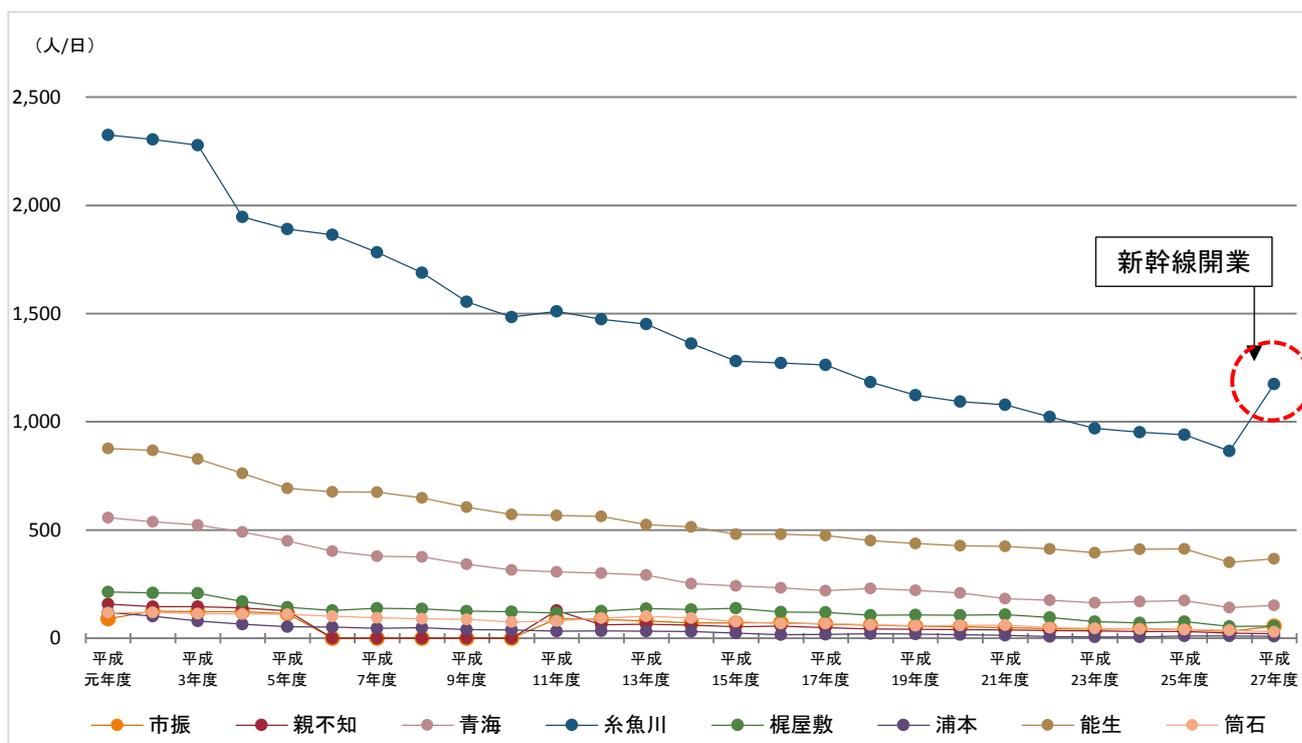
図：JR大糸線駅別乗車人員推移
（出典：市統計要覧）

④ JR北陸本線、えちごトキめき鉄道の利用状況

- ・北陸本線の利用状況は、JR大糸線と同様に平成元年以降で乗車人数が減少している。また、新幹線の開業年であった平成27年度は乗車人数が増加している。
- ・平成9年度～10年度に一時的に乗車人数が減少している。
- ・駅別に利用状況を見ると、各駅の乗車人数は平成元年度から減少している。新幹線が開業した平成27年度には糸魚川駅の乗車人数が増加している。



図：JR北陸本線・えちごトキめき鉄道乗車人員推移（市振～筒石の各駅の合計）
（出典：市統計要覧）



図：JR北陸本線・えちごトキめき鉄道駅別乗車人員推移
（出典：市統計要覧）

(3) バス

① 路線バス

①-1 路線バスネットワーク

- ・路線バスとして、糸魚川バス株式会社が市内16路線を運行し、頸城自動車株式会社が能生地域から上越市までの1路線を運行している。期間限定で運行している白馬岳登山バスを含めると市内の路線バスは18路線運行している。
- ・路線バスは糸魚川駅または糸魚川総合病院等の市内拠点に向けて各地域から運行しているため、糸魚川市街地で複数の路線が重複している。
- ・能生谷地区では、能生川の左岸・右岸を行き来する複雑な系統が存在している。
- ・路線バスは各地域から市内鉄道駅や病院等の生活圏を結ぶ路線に加えて、焼山温泉、笹倉温泉、中尾長者温泉、フォッサマグナミュージアム等、市内の温泉地や観光地を結ぶ路線が運行されている。
- ・高速バスでは、糸魚川駅前と新潟駅前を結ぶ1路線を1日2往復毎日運行している。



図：糸魚川市内バス路線図 (出典：市資料)

①-2 運行状況

- ・市内を運行する16の路線バスの内（高速バスは除く）路線延長が20kmを超えるものは7路線あり、比較的バスの路線延長が長い。
- ・「美山公園・博物館線」は平成27年3月まで運行していた「街めぐりバス」を引き継いで平成27年4月より運行を開始した。「街めぐりバス」の運行日は土・日・祝のみの運行であったのに対し、「美山公園・博物館線」は平日も運行している。
- ・隣接する富山県朝日町が運行しているあさひまちバスが市振に接続している。また、長野県小谷村が運行している北小谷線が平岩駅に接続している。
- ・市内を運行している路線は糸魚川駅、糸魚川総合病院等市街地を拠点として各地域に向かう路線が多く、海岸部から市街地にかけて路線の競合が見られる。能生地域で4路線、糸魚川地域で5路線、青海地域で3路線が競合している。

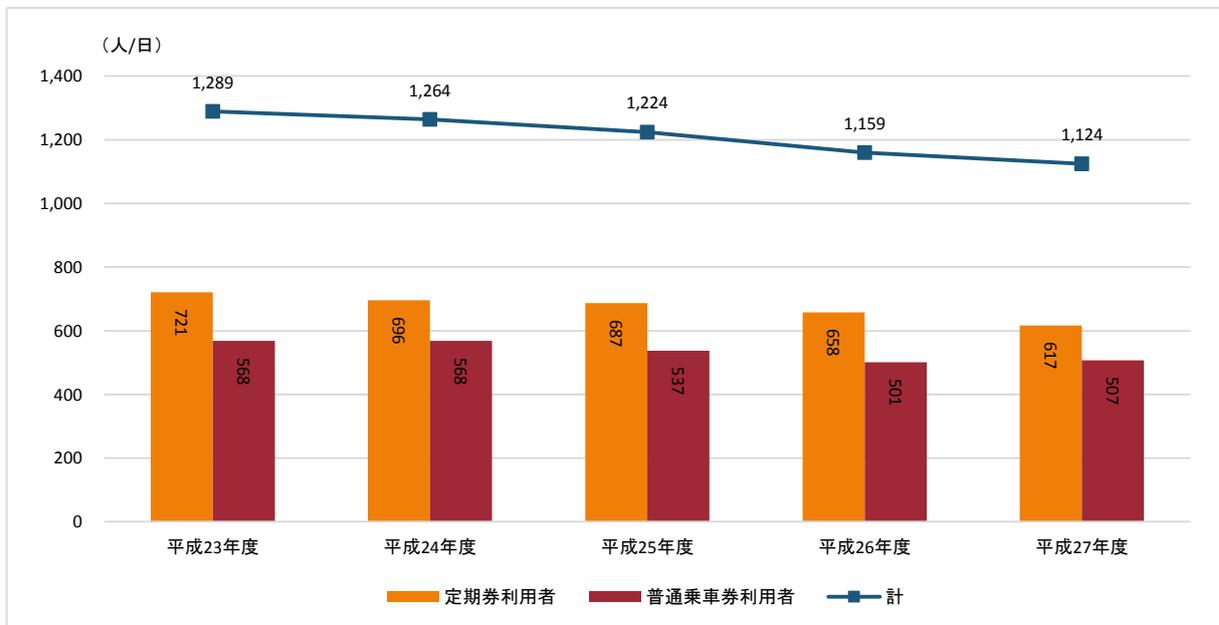
表：路線バス一覧
(出典：各運行事業者HP、時刻表)

路線名	運行事業者	始発-経由-終点	運賃	最大 運行距離	運行本数(往復)			運行時間帯		運行本数/時間 (本/分)		
					平日	土曜	日曜・ 祝日	平日 (下段:土)	日曜・祝日	平日 (土)	日曜・ 祝日	
能生青海線	糸魚川バス	大沢-糸魚川総合病院-能生駅前	140 ~ 850 円	26.2 km	30	28	25	6 時台 ~ 19 時台	6 時台 ~ 18 時台	2.3	2.2	2.1
おうみ巡回線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-おうみ巡回-大沢	100 ~ 310 円	18.0 km	8	10	—	6 時台 ~ 15 時台	—	0.9	1.1	—
青海通り線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-青海通り-大沢	140 ~ 600 円	14.7 km	8	16	—	7 時台 ~ 18 時台	—	0.7	1.5	—
今井線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-糸魚川駅日本海口-中谷内	140 ~ 480 円	9.9 km	11	9	—	8 時台 ~ 18 時台 7 時台、12 時台	—	1.1	1.8	—
根知線	糸魚川バス	糸魚川総合病院-糸魚川駅日本海口-別所	140 ~ 820 円	22.4 km	17	16	10	7 時台 ~ 17 時台	8 時台 ~ 17 時台	1.7	1.6	1.1
西海線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-糸魚川総合病院-来海沢	140 ~ 520 円	13.7 km	12	12	8	7 時台 ~ 18 時台	7 時台 ~ 18 時台	1.1	1.1	0.7
早川線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-糸魚川総合病院-焼山温泉・笹倉温泉	140 ~ 730 円	23.0 km	27	25	16	6 時台 ~ 18 時台	6 時台 ~ 17 時台	2.3	2.1	1.5
蓮台寺線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-蓮台寺入り口-糸魚川総合病院	140 ~ 490 円	5.8 km	6	2	2	7 時台 ~ 18 時台	8 時台 ~ 9 時台	0.5	0.2	2.0
市街地巡回線	糸魚川バス	糸魚川駅日本海口-市街地巡回-糸魚川駅日本海口	100 ~ 100 円	12.8 km	7	7	7	8 時台 ~ 14 時台	8 時台 ~ 14 時台	1.2	1.2	1.2
美山公園・博物館線	糸魚川バス	糸魚川駅アルプスロ-フォッサマグナムミュージアム-糸魚川駅アルプスロ	100 円	7.8 km	8	9	9	9 時台 ~ 16 時台	9 時台 ~ 16 時台	1.1	1.3	1.3
中尾長者温泉線	糸魚川バス	能生駅前-木浦-中尾長者温泉	140 ~ 340 円	6.4 km	7	12	—	12 時台 ~ 18 時台 12 時台 ~ 17 時台	—	1.2	2.4	—
能生線(東廻り)	糸魚川バス	横町五丁目-国保診療所-西飛山	140 ~ 950 円	31.0 km	2	4	—	8 時台 ~ 13 時台	—	0.4	0.8	—
能生線(西廻り)	糸魚川バス	横町五丁目-国保診療所入口-西飛山	140 ~ 580 円	29.5 km	33	20	12	8 時台 ~ 18 時台	8 時台 ~ 17 時台	3.3	2.0	1.3
島道線	糸魚川バス	能生案内所-国保診療所-島道	140 ~ 370 円	7.8 km	6	12	—	7 時台 ~ 17 時台	—	0.6	1.2	—
横線	糸魚川バス	能生案内所-国保診療所-横	140 ~ 350 円	8.6 km	5	10	—	8 時台 ~ 18 時台	—	0.5	1.0	—
仙納線	糸魚川バス	能生駅前-徳崎崎-仙納	140 ~ 660 円	14.8 km	10	20	—	7 時台 ~ 17 時台	—	1.0	2.0	—
能生線(労災病院線)	頸城自動車	能生案内所-磯部小学校入口-労災病院前	140 ~ 1,040 円	30.6 km	4	4	—	7 時台 ~ 15 時台	—	0.5	0.5	—
白馬岳登山バス (運筆線)	糸魚川バス	糸魚川駅アルプスロ-平岩駅前-蓮華温泉 H28.7.16(土)~10.10(月)	200 ~ 1,790 円	43.8 km	4	4	4	6 時台 ~ 14 時台	6 時台 ~ 14 時台	0.5	0.5	0.5
宮崎境線・市振線	朝日町	泊駅前-あさひ総合病院-玉ノ木-市振	200 円	17.1 km	10	—	—	6 時台 ~ 14 時台	—	1.3	—	—
北小谷線	小谷村	千国の庄-南小谷駅-平岩駅前-大綱	200 円	22.2 km	8	—	—	6 時台 ~ 18 時台	—	0.7	—	—
高速バス新潟線	頸城自動車	糸魚川駅前-(北陸自動車道)-新潟駅前	190 ~ 2,850 円	177.1 km	2	2	2	7 時台 ~ 8 時台	7 時台 ~ 8 時台	2.0	2.0	2.0

※運行本数/時間 は各便の運行時間帯に対する運行本数を算出している。

①-3 路線バスの利用状況

- ・路線バスの1日当たりの乗車人員は、平成23年度から減少傾向にある。
- ・乗車人員のうち定期券利用者は平成23年度から減少しているものの、普通乗車券利用者は平成27年度に微増した。全体でみると平成27年度では平成23年度よりも12.8%減少している。
- ・利用した乗車券別にみると各年で普通乗車券利用者よりも定期券利用者の方が多く、路線バスを日常的に利用する方が多いことがわかる。



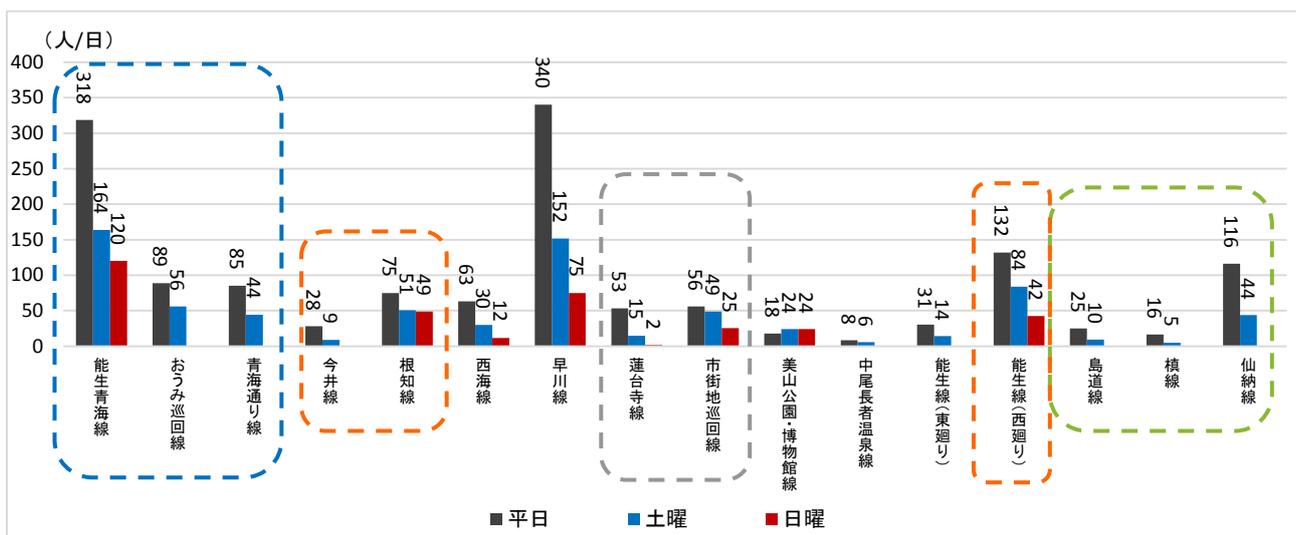
図：糸魚川バスの1日当たり平均乗車人数
(出典：市統計要覧)

①-4 路線別平均乗車人数

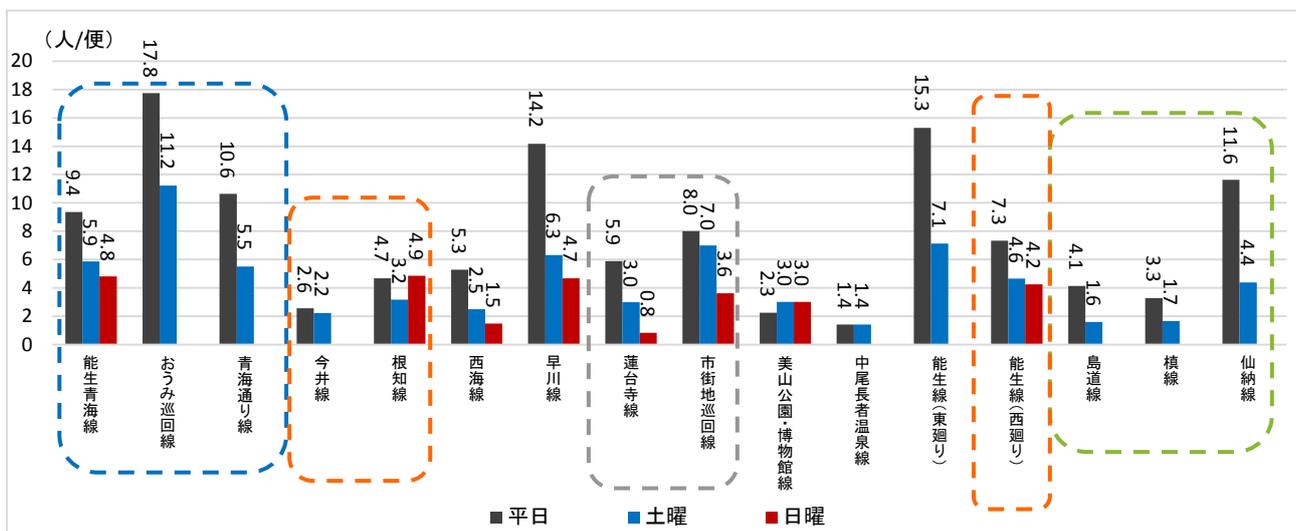
- ・1日当たり平均乗車人数を見ると、平日では能生青海線、早川線が1日当たり300人を超えており、市内を運行する路線バスの中でも1日当たり平均乗車人数が多い路線である。
- ・土曜は平日同様に能生青海線、早川線が1日平均乗車人数150人を超えており、市内を運行する路線バスの中でも1日当たり平均乗車人数が多い路線である。土曜の平均乗車人数は平日の半数程度となる。
- ・日曜では市内16路線の内8路線が運休している。1日平均乗車人数は平日よりも少ない路線が多いが、美山公園・博物館線では平日の利用人数よりも日曜の利用人数の方が多い。
- ・1便あたりの平均乗車人数を見ると、平日ではおうみ巡回線が最も多く1便あたり17.8人、次いで能生線（東周り）で15.3人、早川線14.2人となっている。土曜では平日同様におうみ巡回線が最も多く1便あたり11.2人、次いで能生線（東周り）7.1人、市街地巡回線7.0人となっている。

※乗降客調査は平成27年1月、4月、7月、10月のそれぞれ14日間（平日10日、土曜2日、日曜2日）実施している。
 ※1日平均乗車人数及び1便あたり平均乗車人数は、各調査日の乗車人数を集計し1日当たり及び1便当たりの平均乗車人員を算出している。

※ 囲み部は各バス路線の一部が重複している、または近隣を運行している路線を示す。

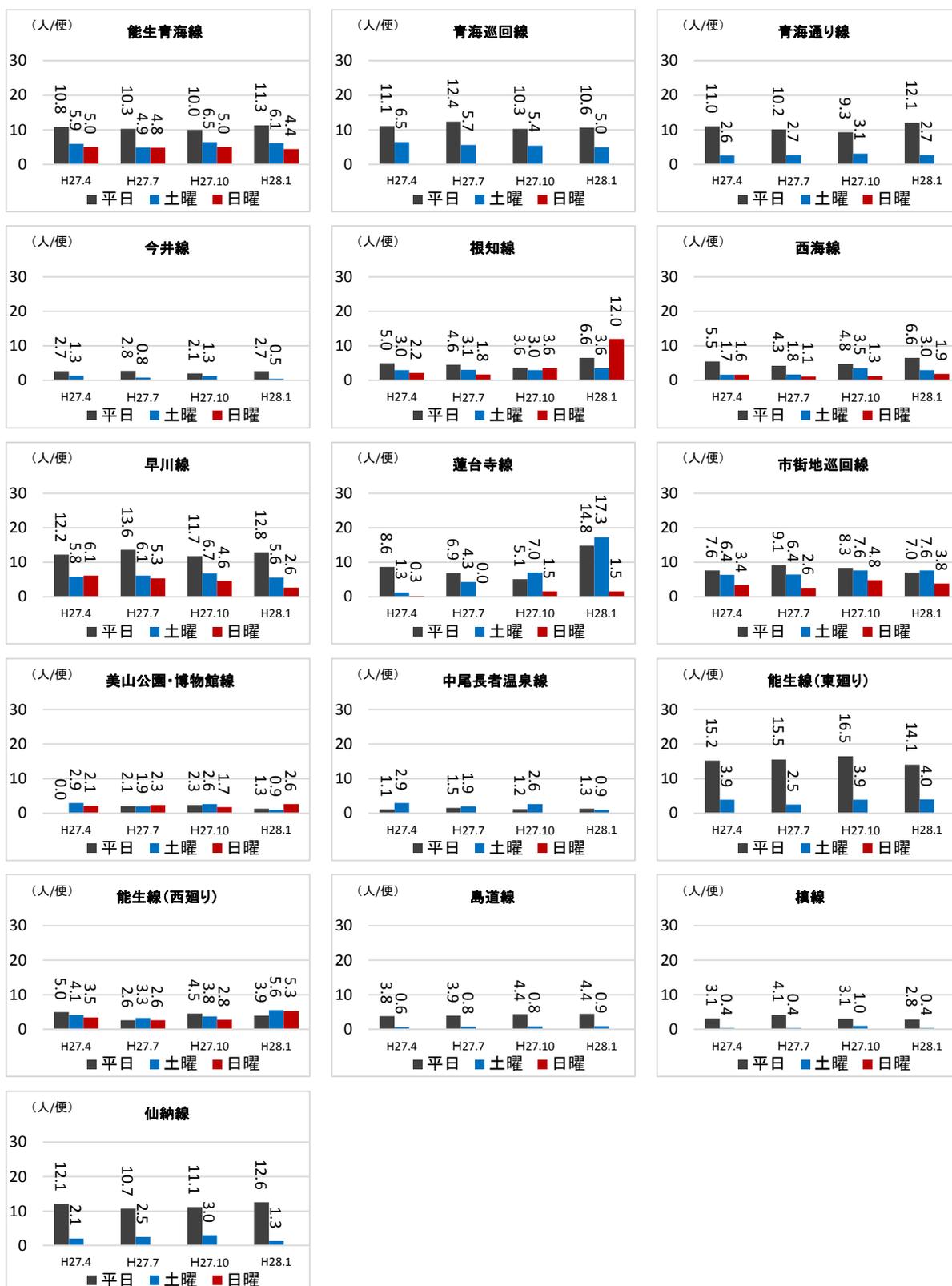


図：平成27年度調査期間における1日当たり平均乗車人数（路線別）
 （出典：糸魚川バス株式会社資料）



図：平成27年度調査期間における1便あたり平均乗車人数（路線別）
 （出典：糸魚川バス株式会社資料）

- ・1 便当たり平均乗車人数は、全体的に平日の乗車人数が土曜、日曜の乗車人数よりも多い。
- ・根知線、蓮台寺線では1月の利用が他の月と比較して多い。根知線は特に日曜の利用が多く、沿線のスキー場に向かう方が利用していると考えられる。蓮台寺線は平日と土曜の利用が他の月と比較して多い。



図：平成27年度調査期間における調査月別1便当たり平均乗車人数（路線別）
 （出典：糸魚川バス株式会社資料）

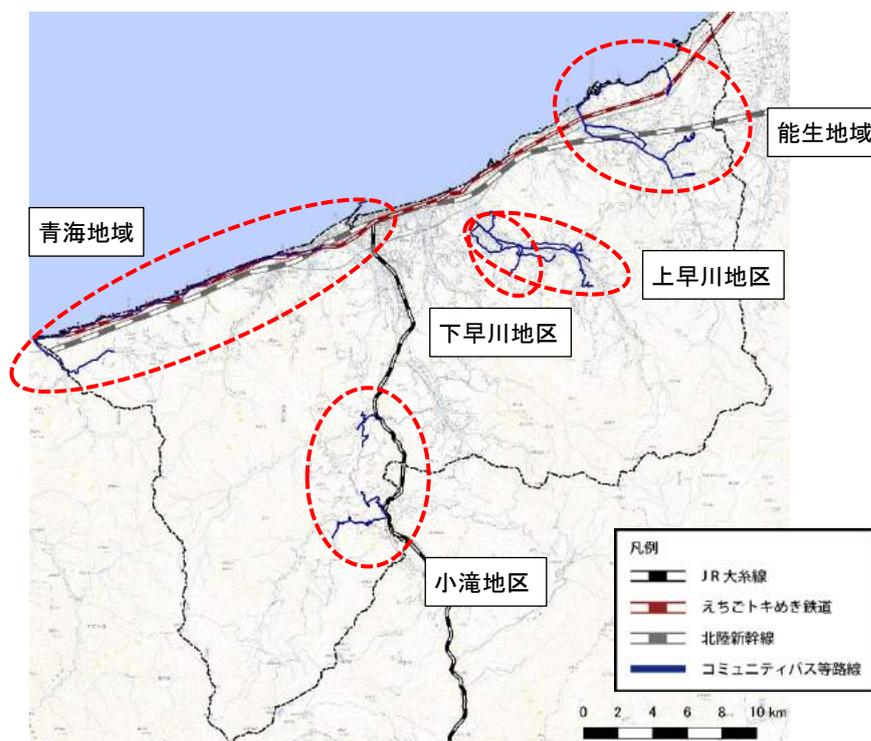
② コミュニティバス・乗合タクシー

②-1 運行状況

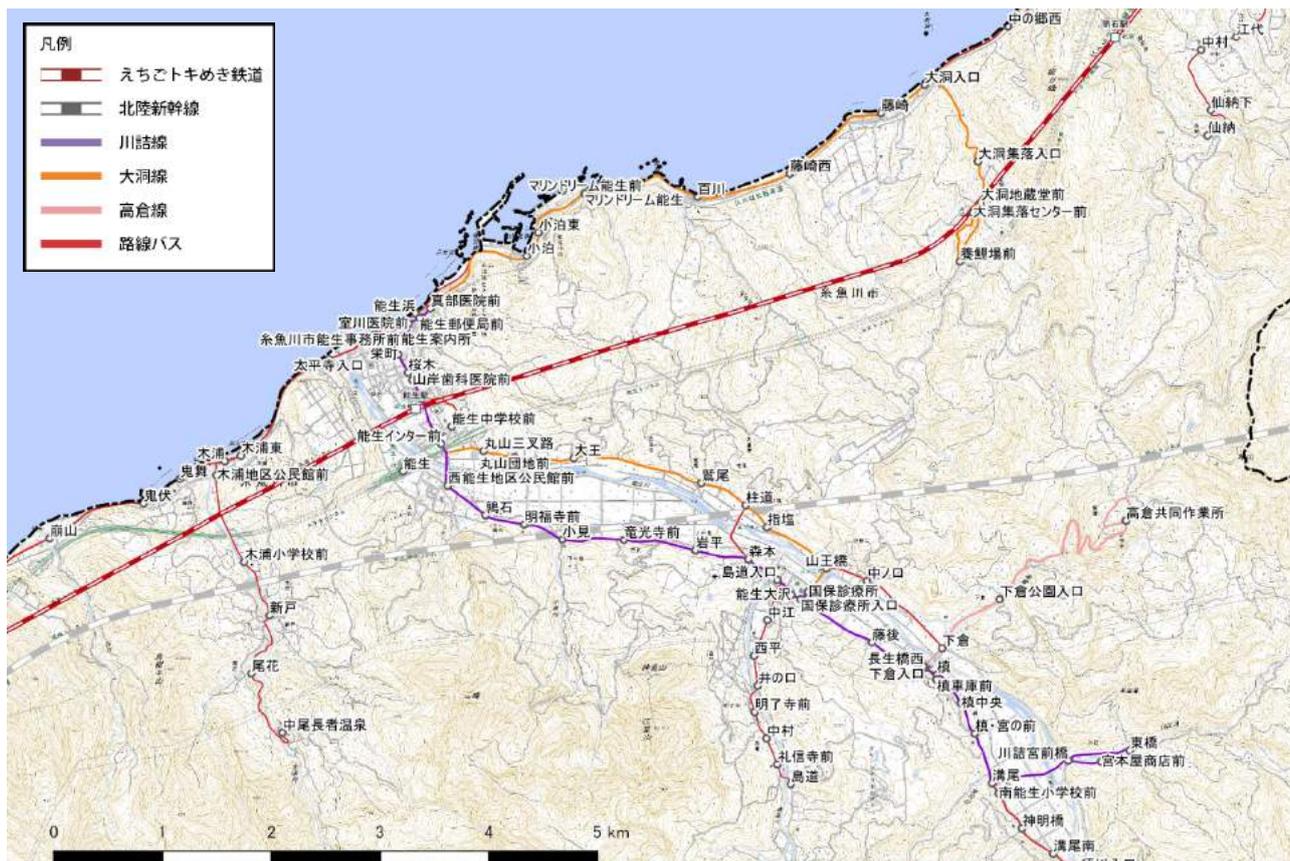
- ・糸魚川市では路線バスの運行地域から離れた場所における移動手段確保として、コミュニティバス（定員 11 人以上）、乗合タクシー（定員 10 人以下）をそれぞれ週 1 日運行している。
- ・道路運送法 4 条路線として平成 23 年 4 月から 12 路線が運行している。平成 25 年 4 月からさらに 1 路線が追加され、計 13 路線の運行となった。
- ・運行便数は地区ごとに異なり、1 日あたり 2～11 便である。料金はすべての路線 1 回 100 円で乗車することができる。

表：コミュニティバス・乗合タクシー一覧
(出典：市資料)

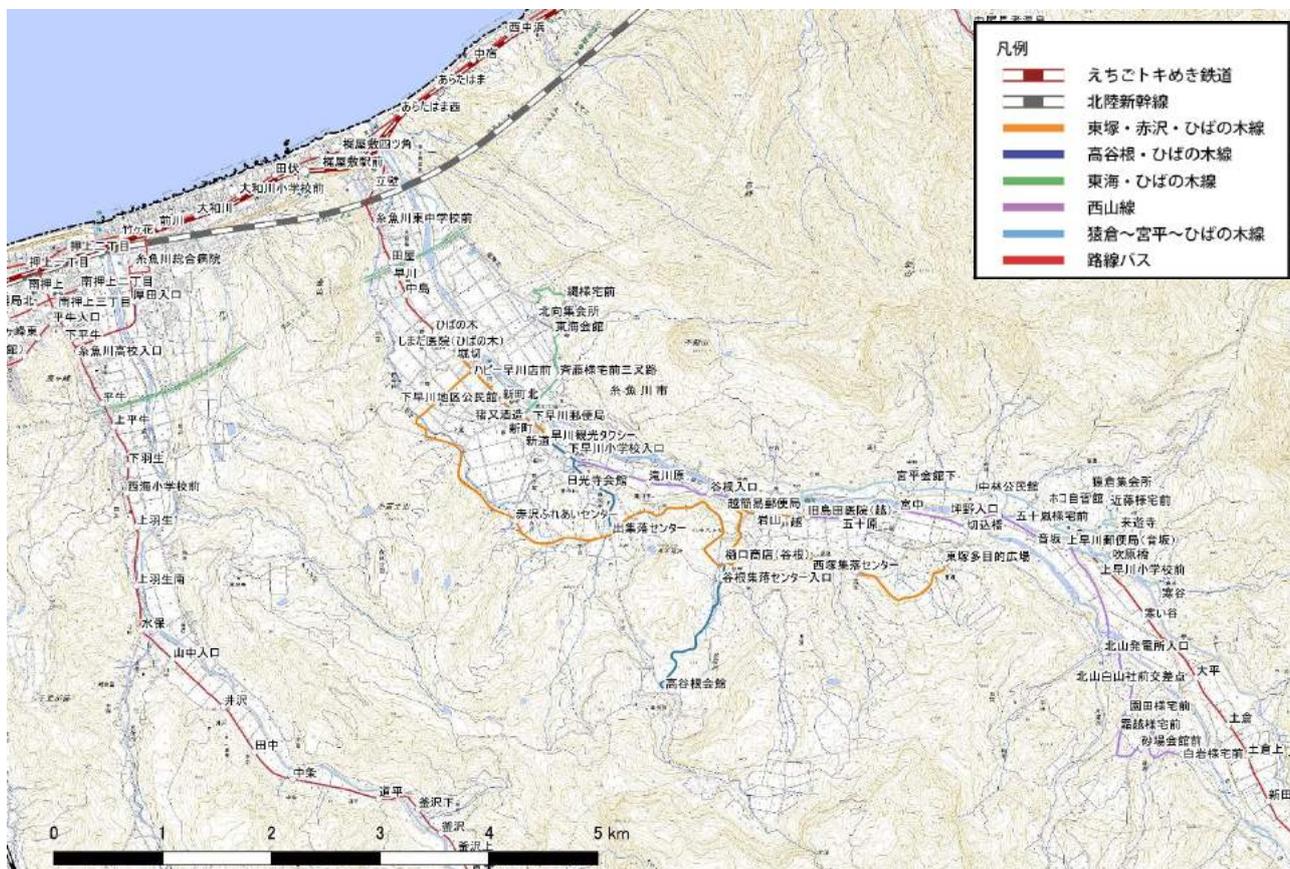
運行地域	路線名	便数/日	曜日	運賃	運行日	運行形態	使用車両	乗客定員	運行事業者	
能生地域	高倉線(高倉-能生事務所-真部医院)	3	木	100円	週1	一部予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	
	川詰線(川詰-能生事務所-真部医院)	3	火	100円	週1	一部予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	
	大洞線(大洞~能生国保診療所)	3	水	100円	週1	一部予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	
糸魚川地域	小滝地区	夏中・小滝駅線	11	水	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	9人乗り	糸魚川タクシー
		山之坊・平岩線	10	月	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	9人乗り	糸魚川タクシー
		木地屋・平岩診療所線	8	月	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	9人乗り	糸魚川タクシー
	下早川地区	東塚・赤沢・ひばの木線	4	木	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
		高谷根・ひばの木線	4	木	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
		東海・ひばの木線	2	木	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
	上早川地区	西山線	4	火	100円	週1	定時運行	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
		猿倉~宮平~ひばの木線	4	火	100円	週1	予約	乗合タクシー	4人乗り	早川観光タクシー
	青海地域	きらら青海・玉ノ木線	7	金	100円	週1	定時運行	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸
市振・上路線		3	金	100円	週1	予約	コミュニティバス	13人乗り	ツカダ運輸	



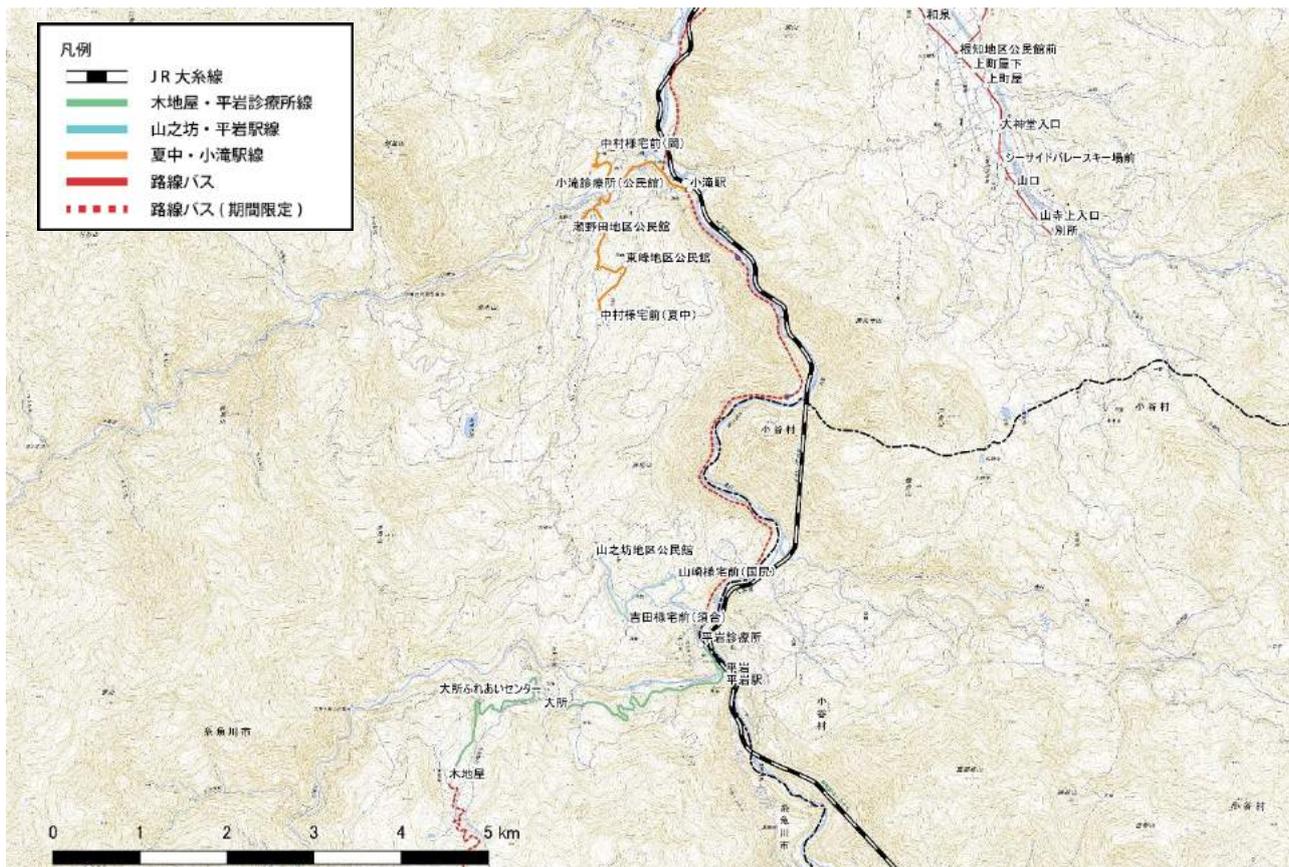
図：平成 28 年度 コミュニティバス・乗合タクシー路線
(出典：市資料、各運行事業者バス路線図)



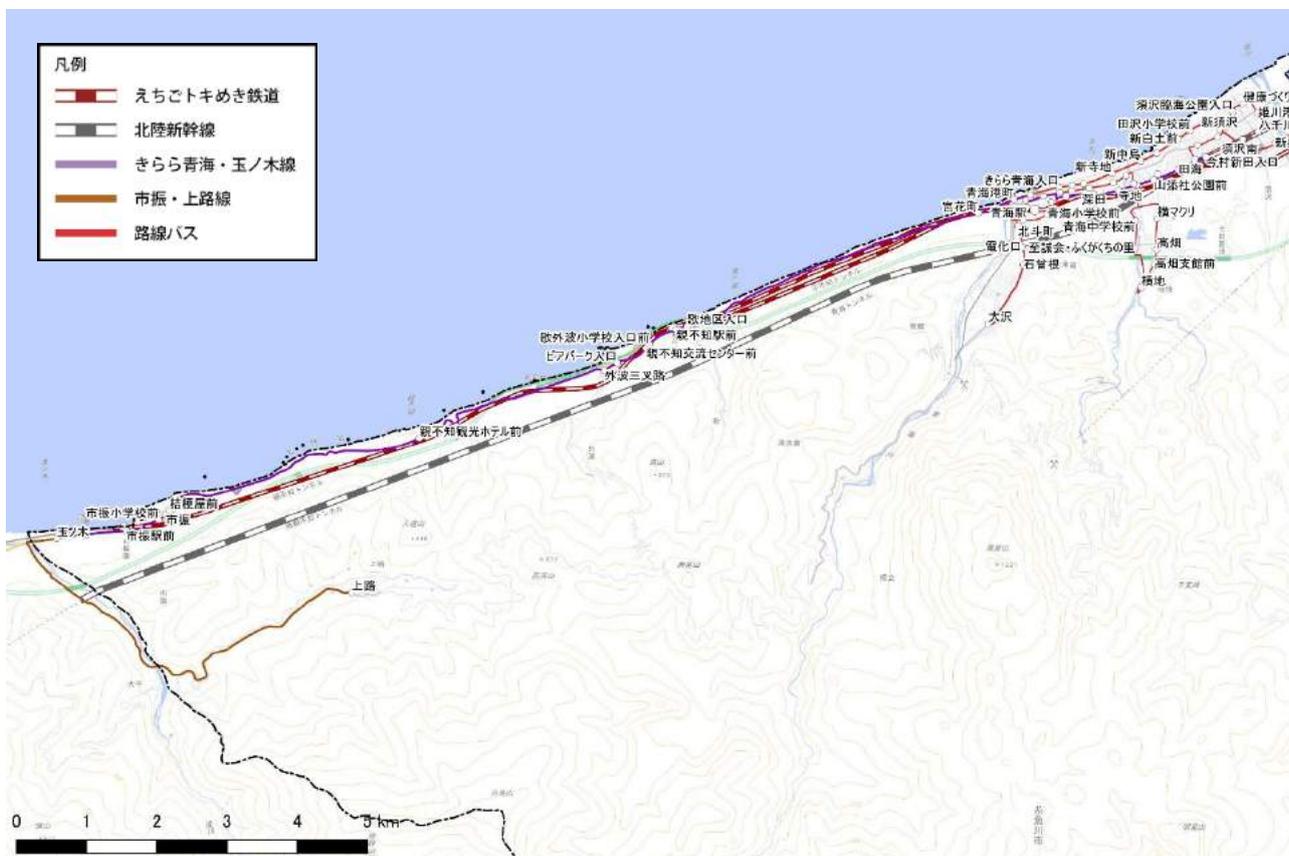
図：平成 28 年度 能生地域コミュニティバス路線
 (出典：市資料、各運行事業者バス路線図)



図：平成 28 年度 糸魚川地域乗合タクシー路線
 (出典：市資料、各運行事業者バス路線図)



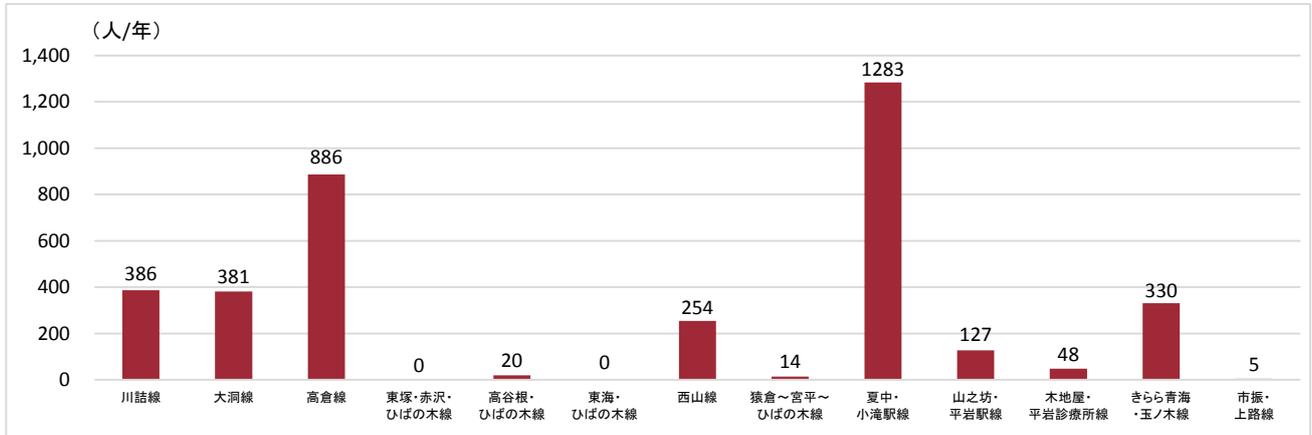
図：平成 28 年度 小滝地区、平岩地区乗合タクシー路線
 (出典：市資料、各運行事業者バス路線図)



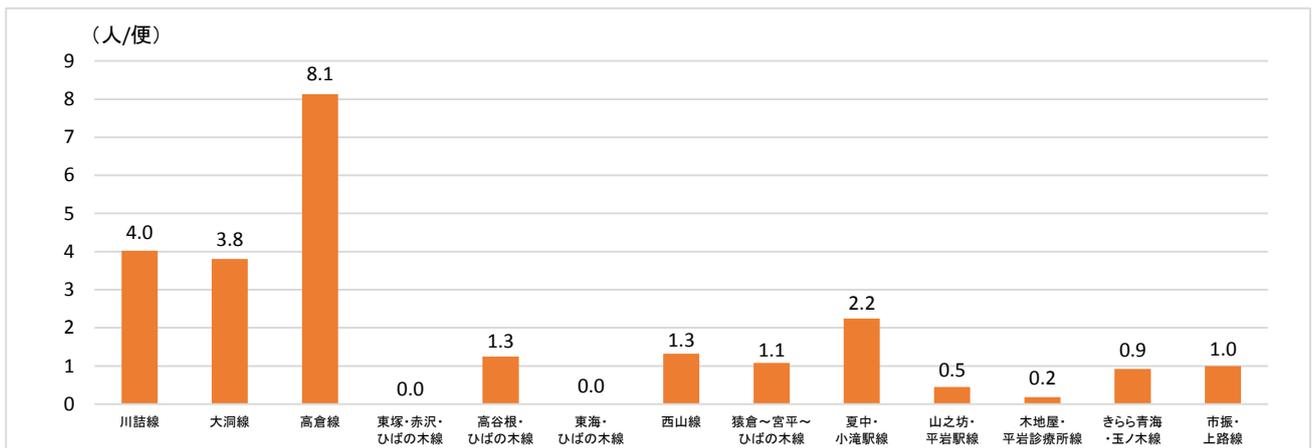
図：平成 28 年度 青海地域コミュニティバス路線
 (出典：市資料、各運行事業者バス路線図)

②-2 利用者数推移

- ・平成27年度のコミュニティバス・乗合タクシーの利用者数は、地域によって大きく異なり、年間利用者数では、夏中・小滝駅線が最も多い。
- ・1便当たりの平均乗車人数が最も多い路線は、高倉線である。

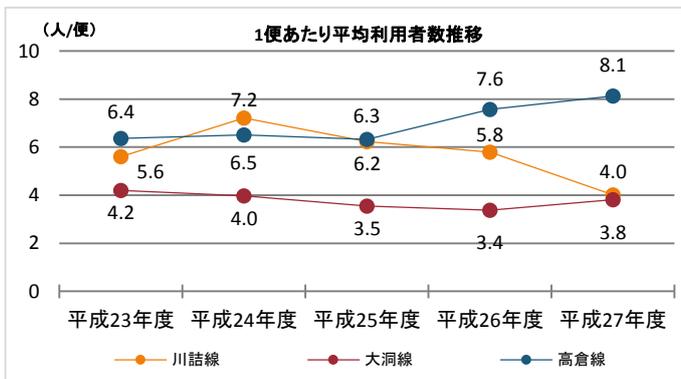


図：平成27年度 コミュニティバス・乗合タクシー年間利用者数（路線別）
（出典：市資料）



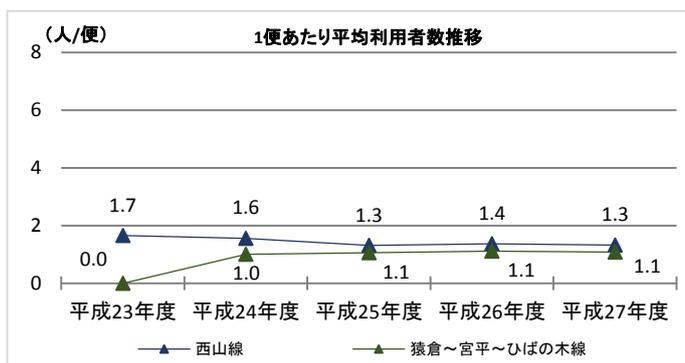
図：平成27年度 コミュニティバス・乗合タクシー1便あたり平均利用者数（路線別）
（出典：市資料）

能生地域 コミュニティバス（13人乗り）利用状況



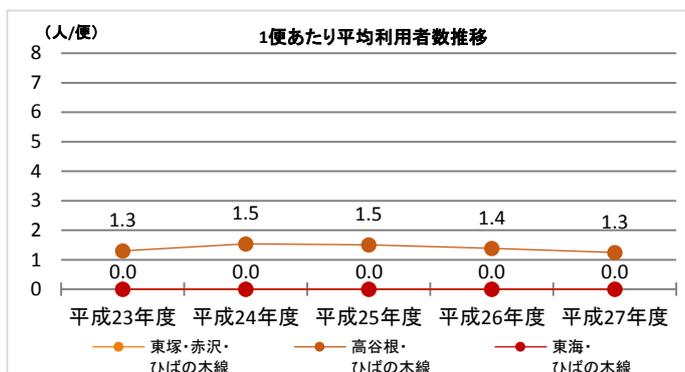
- ・川詰線は、平成24年度の1便当たりの利用者数7.2人から平成27年度には4.0人に減少している。
- ・一方、高倉線は平成25年度の1便当たりの利用者数6.3人から平成27年度には8.1人に増加している。
- ・大洞線は平成23年度から1便当たりの利用者数は4.2～3.4人の間で推移している。

糸魚川地域上早川地区 乗合タクシー（4人乗り）利用状況



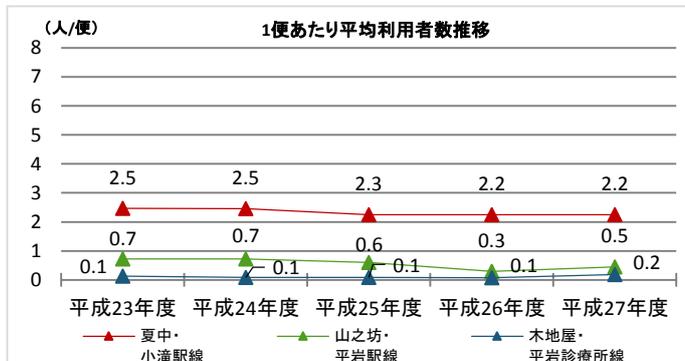
- ・西山線は1便当たりの利用者数が1.7～1.3人で推移している。
- ・猿倉～宮平～ひばの木線は平成23年度以降、1便当たりの利用者数1.0～1.1人で推移している。

糸魚川地域下早川地区 乗合タクシー（4人乗り）利用状況



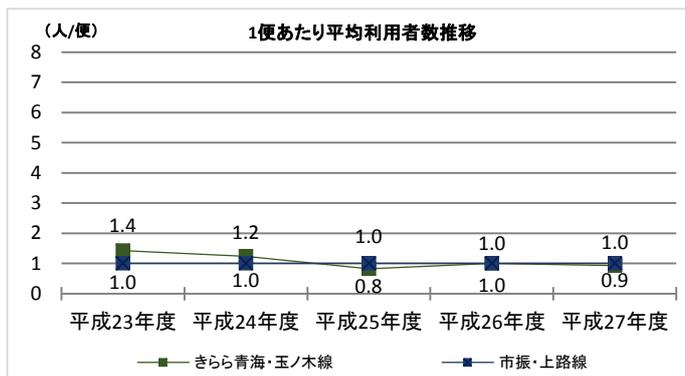
- ・高谷根・ひばの木線は1便当たりの利用者数は1.3～1.5人で推移している。
- ・東塚・赤沢・ひばの木線、東海・ひばの木線の利用者数は0人である。

糸魚川地域小滝地区 乗合タクシー（9人乗り）利用状況



- ・夏中・小滝駅線の1便あたり利用者数は2.2～2.5人の間で推移している。平成24年度以降は減少傾向にある。
- ・山之坊・平岩駅線、木地屋・平岩診療所線の1便あたり利用者数は1人未満である。

青海地域 コミュニティバス（13人乗り）利用状況



- ・市振・上路線は平成23年度から1便あたり1.0人で推移している。
- ・きらら青海・玉ノ木線は平成23年度は1便あたり1.4人であったが、平成25年度以降1便あたり0.8人～1.0人で推移している。

③ その他（スクールバス等の公共交通、自家用有償運送）

- ・小中学校への通学が遠距離となる地区では、路線バスやスクールバスを利用して通学している。
- ・平成30年3月に浦本小学校と市振小学校の閉校が予定されており、統合先小学校への児童の通学手段を検討する必要がある。浦本小学校は大和川小学校への統合の意思決定がなされ、市振小学校は青海小学校への統合に向けて地元での協議が進められている。
- ・青海地域では、市町合併前から地域内に医療機関がない歌・外波・市振・玉ノ木地区において医療機関に向かう無料の送迎車を週1日運行している。
- ・能生地域では、市町合併前から能生地区から中尾長者温泉への利用者の輸送手段として、無料のふれあい送迎を週1日運行している。
- ・市内全域を対象に福祉有償運送が運行されている。

表：糸魚川市内スクールバス等一覧
(出典：市資料)

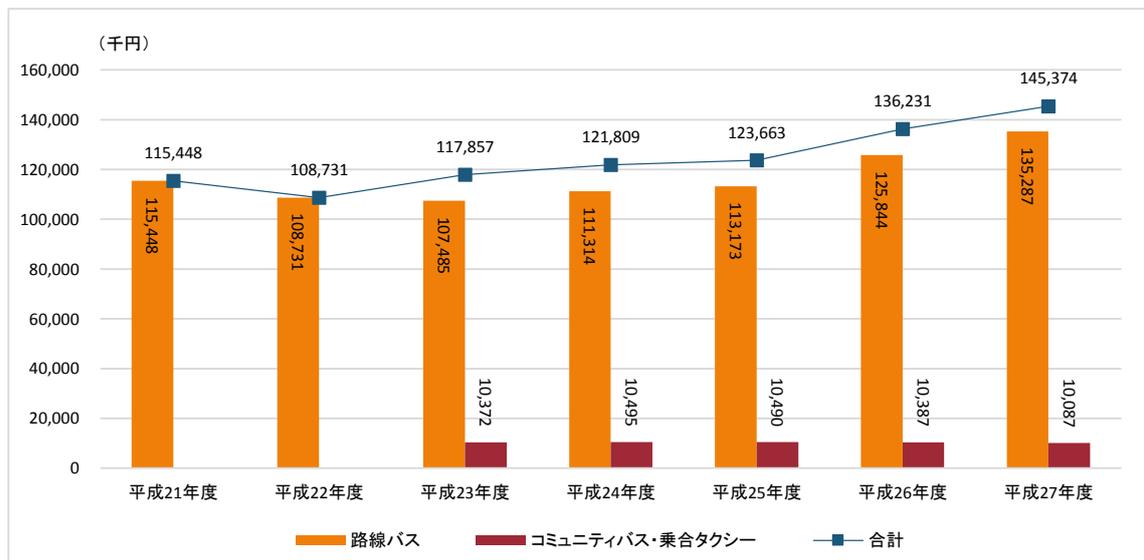
運行地域	目的地	運行形態	運行事業者（運行受託者）
能生地域	磯部小学校	路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（市有）	大洞区（大洞～国道8号）
		路線バス	糸魚川バス株式会社
	南能生小学校	スクールバス（市有）	高倉地区通学バス運行組合
		タクシー	有限会社糸魚川タクシー（下校臨時）
	能生中学校	路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（貸切）	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（市有）	高倉地区通学バス運行組合（南能生小学校と同乗）
	糸魚川地域	下早川小学校	路線バス
西海小学校		路線バス	糸魚川バス株式会社（復路のみ）
		スクールバス（貸切）	糸魚川バス株式会社（往路のみ糸魚川中学校スクールバス同乗）
糸魚川小学校		路線バス	糸魚川バス株式会社
大野小学校		路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（貸切）	糸魚川バス株式会社（一部往路のみ糸魚川中学校スクールバス同乗）
根知小学校		スクールバス（市有）	株式会社糸魚川シーサイドバレー
糸魚川東中学校		路線バス	糸魚川バス株式会社
糸魚川中学校		路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（貸切）	糸魚川バス株式会社
青海地域	田沢小学校	スクールバス（市有）	株式会社ツカダ運輸
	青海小学校	路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（市有）	株式会社ツカダ運輸
	青海中学校	路線バス	糸魚川バス株式会社
		スクールバス（市有）	株式会社ツカダ運輸
		鉄道	えちごトキめき鉄道
	青海幼稚園	通園バス（市有）	株式会社ツカダ運輸、有限会社糸魚川タクシー
田沢幼稚園	通園バス（市有）	株式会社ツカダ運輸	

表：その他市内交通
(出典：市資料)

運行地域	運行地区	目的地	運行形態	運賃	運行主体（運行事業者）
能生地域	能生地区	中尾長者温泉	ふれあい送迎	無料	糸魚川市
青海地域	歌・外波・市振、玉ノ木地区	富山県朝日町医療機関 青海地域の医療機関	医療受診者送迎車	無料	糸魚川市
市内全域	市内全域	市内全域	福祉有償運送	有料	特定非営利活動法人 ぐりんバスケット

(4) 公共交通の確保にかかる補助金額の推移

- ・平成23年度から公共交通の確保にかかる補助金は年々増加しており、平成27年度には路線バスとコミュニティバス・乗合タクシーへの補助を合わせ1億4千万円以上の補助額となっている。
- ・コミュニティバス・乗合タクシーは平成23年度より補助金を受けて運行している。補助額は1千万円程度で推移している。



図：路線バス及びコミュニティバス・乗合タクシー運行費補助金額実績値推移
(出典：市資料)

(5) 公共交通利用促進事業等の状況

- ・糸魚川市で実施している公共交通利用促進事業等は以下のとおり。

事業名	対象及び自己負担額	期間	内容
こどもフリーパス	小学生 1,500 円 中学生 3,000 円	6ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バス乗り放題の割引定期券 ・小学生：6か月定期券は、額面2,570円のところ市が1,070円を負担 ・中学生：6か月定期券は、額面5,660円のところ市が2,660円を負担 (注) 遠距離通学児童・生徒に対しては路線バス等の定期券支給
	小学生 510 円 中学生 1,030 円	1ヶ月	
高齢者・障害者おでかけバス事業	65歳以上で一定の条件を満たす方 障害のある方 3,000 円	6ヶ月	<ul style="list-style-type: none"> ・路線バス乗り放題の割引定期券 ・6か月定期券は、額面5,660円のところ市が2,660円を負担
	同上 1,030 円	1ヶ月	
高齢者おでかけ支援タクシー券交付事業	70歳以上で一定の条件を満たす方	1年間	タクシー券交付 4,000円分(年額)
障害者交通費助成事業	障害のある方	1年間	タクシー券・燃料券交付 6,000円～24,000円分(年額)
その他利用促進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・バス教室(「園児」、「小学生」、「大人のバス教室」など) ・ワンコインバス(期日限定100円均一運賃) ・路線バス啓発・利用促進資料「みんなでバスにのるまいか～」 ・路線バス出張サロン「よるまいか～」 		

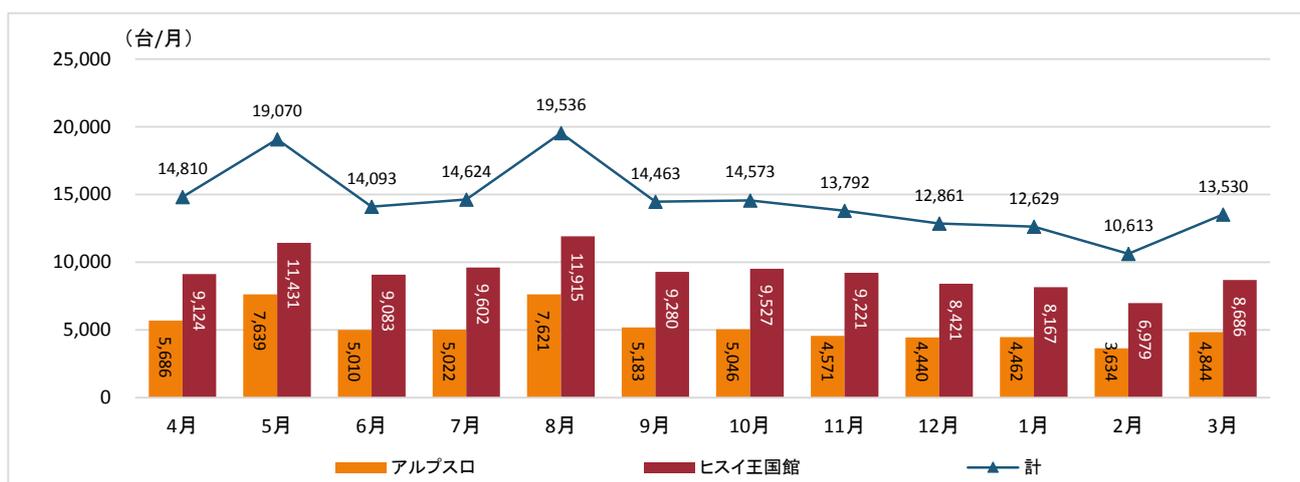
(6) 交通関連施設・観光等・その他

① 駅駐車場概要及び利用状況

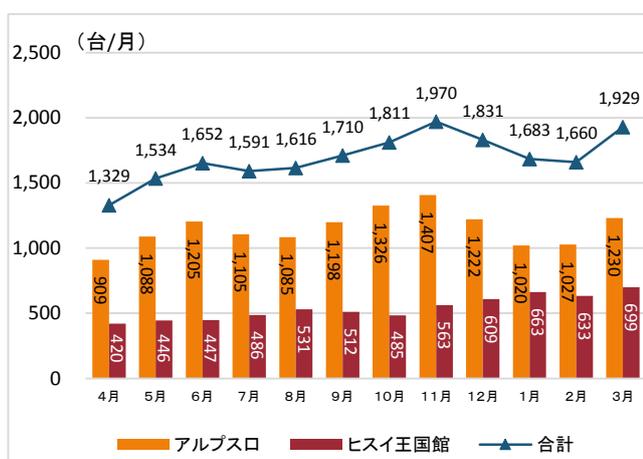
- ・糸魚川駅に隣接する駐車場は糸魚川駅アルプス口駐車場、ヒスイ王国駐車場の2か所である。北陸新幹線利用者に対して新幹線パーク&ライドサービスを行っており、新幹線利用割引が適用される。
- ・平成27年度の駅駐車場利用は、糸魚川駅アルプス口駐車場よりもヒスイ王国駐車場利用の方が多い。
- ・新幹線割引利用者数は平成27年度よりも平成28年度の方が多く、新幹線パーク&ライドサービスの利用者数が増えている。

表：糸魚川駅駐車場最大駐車台数、サービス内容
(出典：JR西日本HP、市HP)

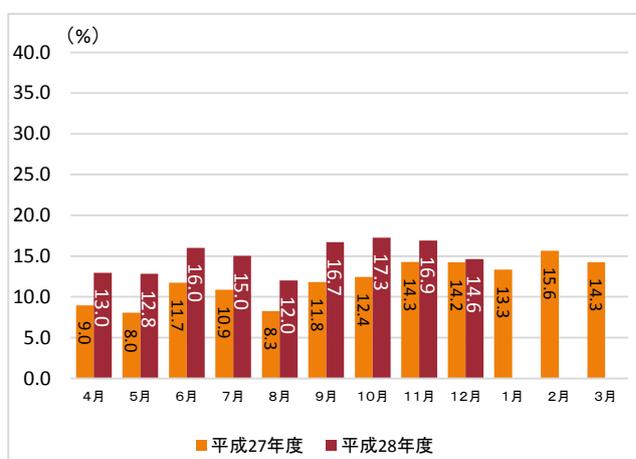
駐車場名	最大駐車台数	新幹線利用によるサービス内容	パーク&ライド予約の有無
糸魚川駅アルプス口駐車場	118台	最大4日間無料	不要
ヒスイ王国駐車場	172台	最大4日間無料	不要



図：平成27年度駅駐車場月別利用台数
(出典：市資料)



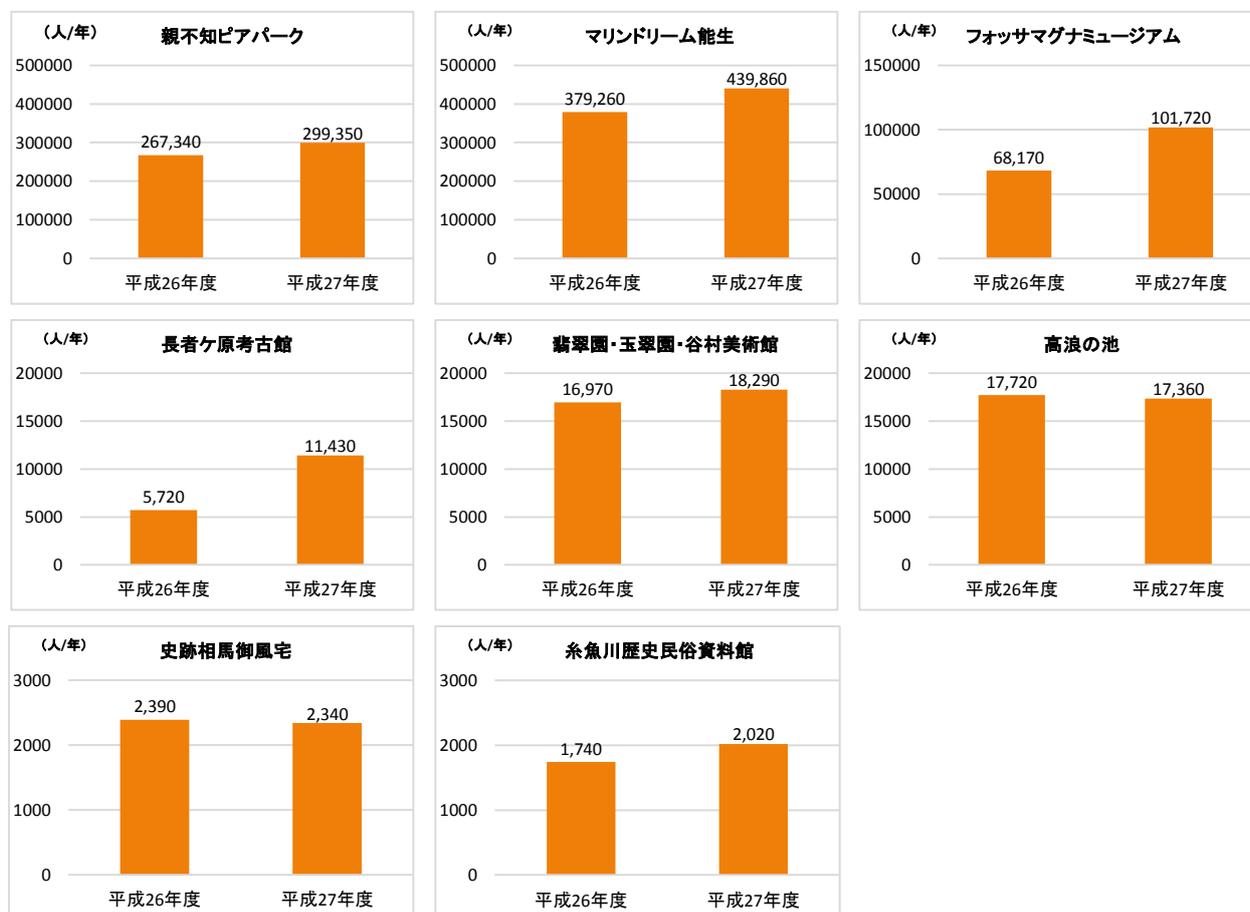
図：平成27年度 駐車場利用の新幹線利用割引台数
(出典：市資料)



図：駐車場利用の新幹線利用割引利用割合
(出典：市資料)

② 観光入込客数の推移

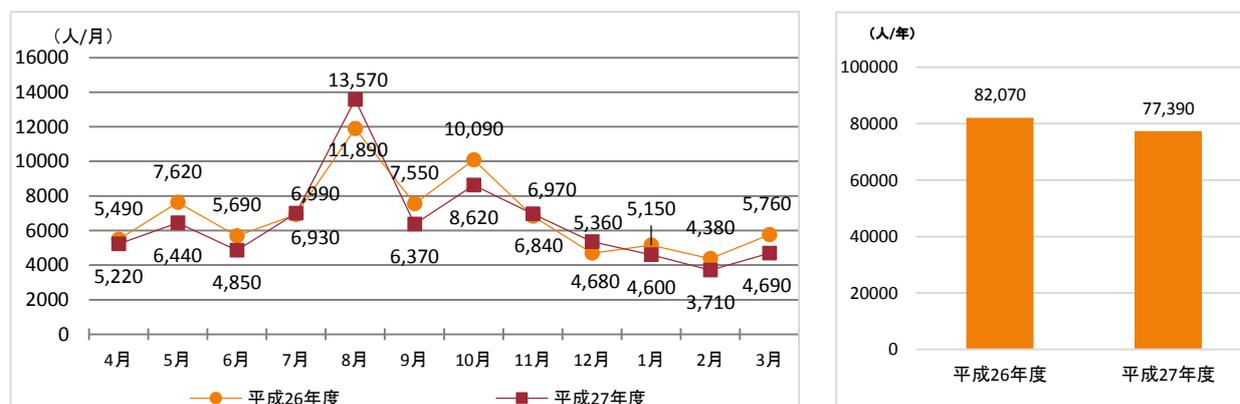
- ・各施設への観光客は、高浪の池を除き平成26年度より平成27年度の方が増加している。
- ・平成27年度の観光入れ込み客数が最も多かった施設はマリンドリーム能生であり439,860人であった。観光入れ込み客数が減少した高浪の池は、平成26年よりも300人程度減少している。



図：平成27年度 観光入込客数の前年対比
(出典：市資料)

③ 宿泊客数の推移

- ・宿泊客数の総数は平成26年度より平成27年度の方が減少している。
- ・前年との月別で比較すると平成27年度の宿泊客数は、8月、11月、12月で平成26年度よりも宿泊客数が多いものの他の月は平成26年度よりも低くなった。

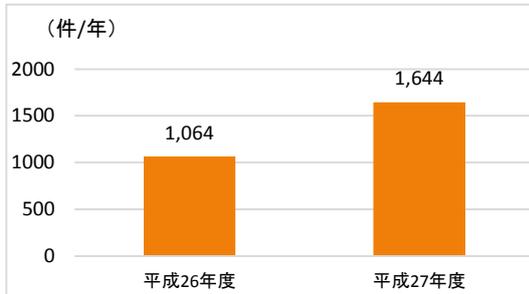


図：平成27年度 宿泊客数の月別前年対比
(出典：市資料)

図：平成27年度 宿泊客数の前年対比
(出典：市資料)

④ レンタカー-利用件数

- ・平成27年度の市内レンタカー利用件数は、平成26年度より約1.6倍に増加した。
- ・平成28年度は利用促進としてレンタカー乗捨て無料の取組「駅レンタカー乗り捨てパス」を行っている。実施時期は4月1日～12月27日であり、糸魚川営業所を発着とする予約を対象としている。



図：レンタカー-利用件数の推移 (出典：市資料)

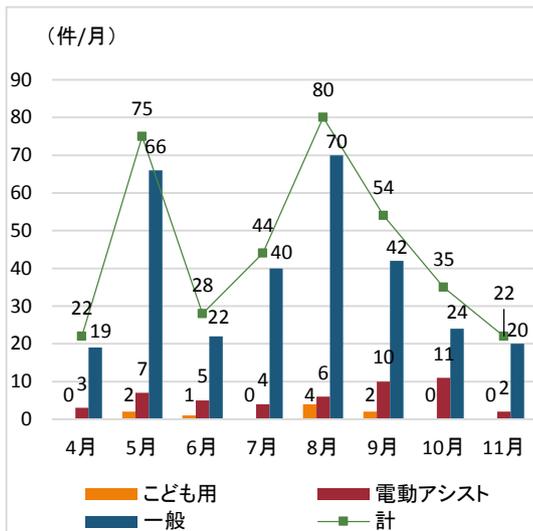


○平成28年度レンタカー-乗捨て無料の取組概要
 期間...4月1日～12月27日
 条件...糸魚川営業所発着限定
 対象営業所...上越妙高、飯山、信濃大町、長野、松本、黒部宇奈月温泉、富山、新高岡

図：駅レンタカー-乗り捨てパス チラシ (出典：糸魚川市観光ガイド、市資料)

⑤ レンタサイクル利用件数

- ・平成27年度の市内レンタサイクルの貸し出し件数は、8月が最も多く80件、次いで5月75件。春の行楽シーズンの5月や海水浴客等が利用する8月に利用が多いと考えられる。9月～11月の秋の行楽シーズンは、利用客は徐々に減少する。



図：レンタサイクル利用件数の推移 (出典：市資料)



- ・利用時間...9時～17時
- ・利用期間...平成27年4月1日～11月30日 (冬季は自転車の貸出は行っていない)
- ・受付窓口
伊藤商会、糸魚川ジオステーションジオパル内観光案内所
マリンドリーム能生

図：レンタサイクル受付場所糸魚川駅周辺位置図 (出典：レンタサイクルマップ)

⑥ 既存アンケート結果

●高齢者生活調査（平成25年実施）におけるアンケート

調査地域 市内全域
 調査対象 75歳以上のみの高齢者で構成される世帯の内抽出した1004世帯
 抽出方法 地域を考慮して抽出
 調査方法 市職員の対象世帯訪問による聞き取り調査
 ※注釈 SA：単数回答（一つに回答）、MA：複数回答（あてはまるすべてに回答）

外出について

- ・外出に関しては「(外出) している」が93.6%、「(外出) していない」が6.4%。
- ・「(外出) している」と回答したうち、外出手段で最も多いのは「路線バス」25.8%、次いで「自分が運転する車」23.1%。
- ・「(外出) していない」理由としては、「身体が不自由なため」が51.3%、「外出する用事がない」22.4%、「交通手段がないため」が15.8%。
- ・路線バスを利用しない理由として最も多いものは、「路線バス以外に便利な交通手段がある」で60.9%。次いで「バスの段差がきつくて乗り降りできない」が10.1%。「利用しやすい時間帯に路線バスが運行していれば利用しますか」は「利用しない」が約8割。

車やバスで外出していますか。(SA)

回答	回答数	割合
している	940	93.6
していない	64	6.4
合計	1004	100.0

⇒外出している方

外出手段(MA)	回答数	割合
自分が運転する車	323	23.1
同居の家族が運転する車	103	7.4
別居の家族が運転する車	179	12.8
バイク	45	3.2
路線バス	361	25.8
電車	40	2.9
タクシー	179	12.8
近所の人の車	36	2.6
その他	131	9.4
合計	1397	100.0

⇒外出していない方

なぜ外出しないのか(SA)	回答数	割合
身体が不自由なため	39	51.3
家族・医師に止められているため	2	2.6
交通手段がないため	12	15.8
外出する用事がない	17	22.4
その他	6	7.9
合計	76	100.0

路線バスを利用していない方

路線バスを利用していない理由(MA)	回答数	割合
路線バス以外に便利な交通手段がある	277	60.9
居住地域には路線バスが運行していない	9	2.0
最寄りのバス停まで遠い	39	8.6
利用しやすい時間帯の路線バスがない	29	6.4
バスの段差がきつくて乗り降りできない	46	10.1
バスの利用方法がわからない	8	1.8
その他	47	10.3
合計	455	100.0

利用しやすい時間帯に路線バスが運

行していれば利用しますか(SA)	回答数	割合
利用する	65	21.3
利用しない	240	78.7
合計	305	100.0

通院について

- ・「病気で通院していますか」について「はい」の回答が93.6%、「いいえ」の回答が6.4%。
- ・通院先は糸魚川総合病院が38.6%、市外の病院へ通院している方が9.2%。
- ・通院回数の回答が最も多いのは、「月1回」、次いで「月2～3回」。「月1～3回」通院していると回答した人は全体の71.0%となっている。

現在病気で通院していますか

(軽いけが、歯医者を除く) (S A) 回答数 割合

	回答数	割合
はい	940	93.6
いいえ	64	6.4
合計	1004	100.0

はいと回答した方

通院先はどちらですか (M A)

	回答数	割合
糸魚川総合病院	468	38.6
糸魚川総合病院以外の市内医療機関	634	52.3
市外の医療機関	111	9.2
合計	1213	100.0

通院の回数がどれぐらいですか

すべての医療機関の受診回数 (S A) 回答数 割合

	回答数	割合
月4回以上	66	7.0
月2～3回	257	27.3
月1回	411	43.7
2ヶ月に1回程度	125	13.3
3か月に1回程度	47	5.0
その他	34	3.6
合計	940	100.0

●北陸新幹線開業・市制10周年及び広報事業に関する糸魚川市民アンケート調査 (平成25年実施)

調査地域 市内全域
 調査対象 18歳以上の市民 3000人
 抽出方法 無作為に抽出
 調査方法 郵送による配送・回収
 回収率 42.9%

問 糸魚川駅の新幹線利用者数増加のために必要なこと

- ・観光振興や魅力的な施設の設置が回答の大半を占めている。「駐車場やバス、タクシーなど交通利便性の向上」を回答した方は16.9%である。
- ・その他の回答には二次交通に関する意見が11件、駅周辺の駐車場整備に関する意見が8件挙げられている。その他の回答全体の25%を占める。

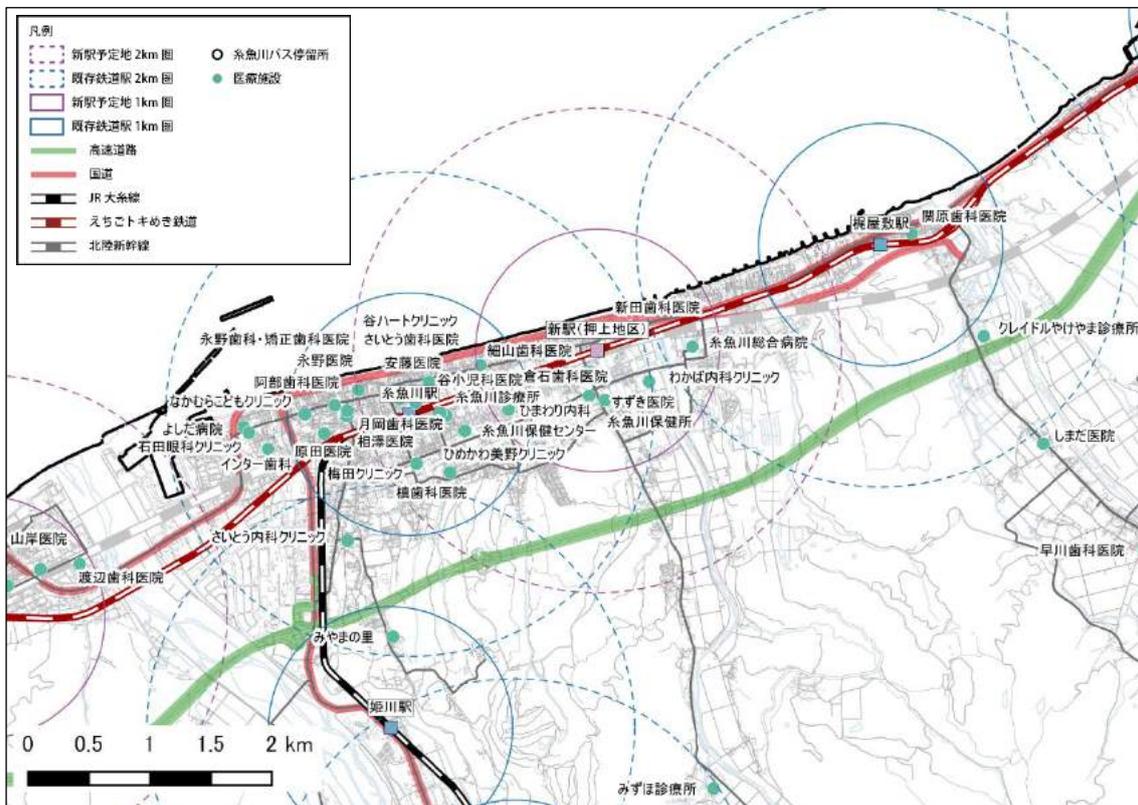
北陸新幹線糸魚川駅での乗客数を増やすためには、何が必要だと思いますか (M A) 回答数 割合

糸魚川駅を中心とした魅力的な施設	560	23.0
駐車場やバス、タクシーなど交通利便性の向上	411	16.9
地場産業など経済・産業振興	361	14.8
ジオパーク、豊かな自然や新鮮な食べ物などを活かした観光振興	858	35.3
文化、人などを生かした交流拡大	167	6.9
その他	76	3.1
計	2433	100.0

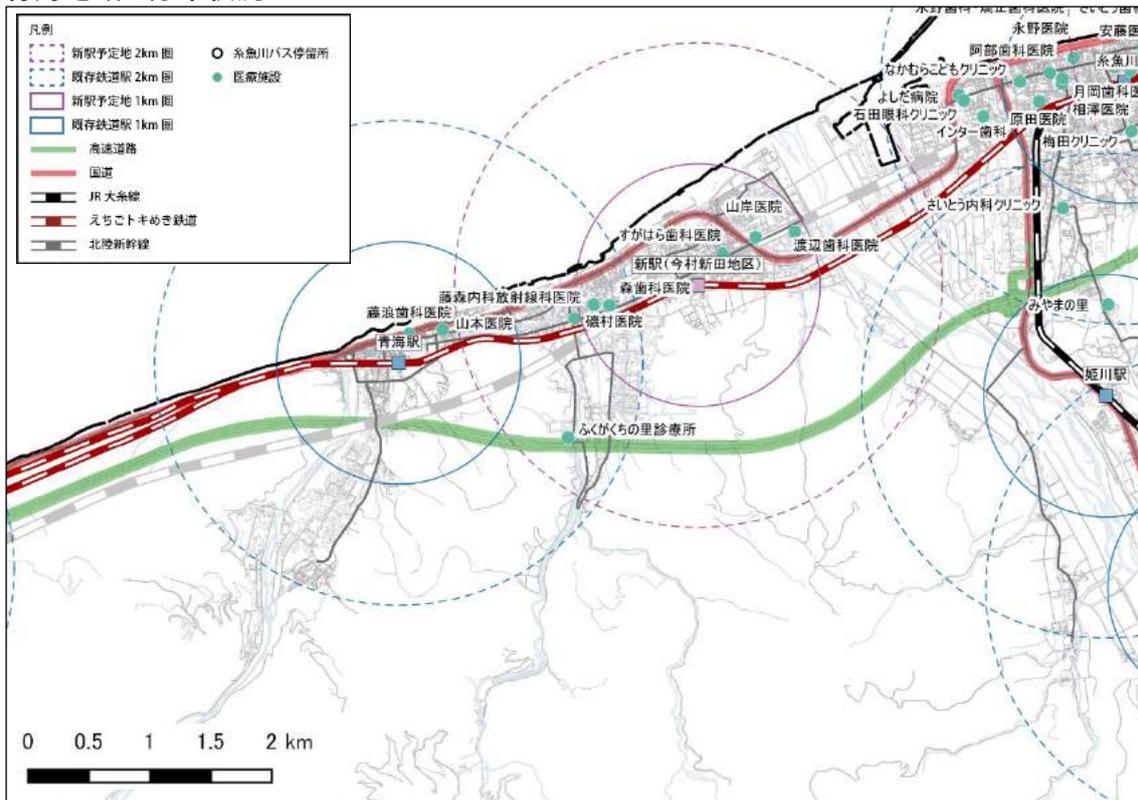
5. 都市機能の分布状況

(1) 医療施設

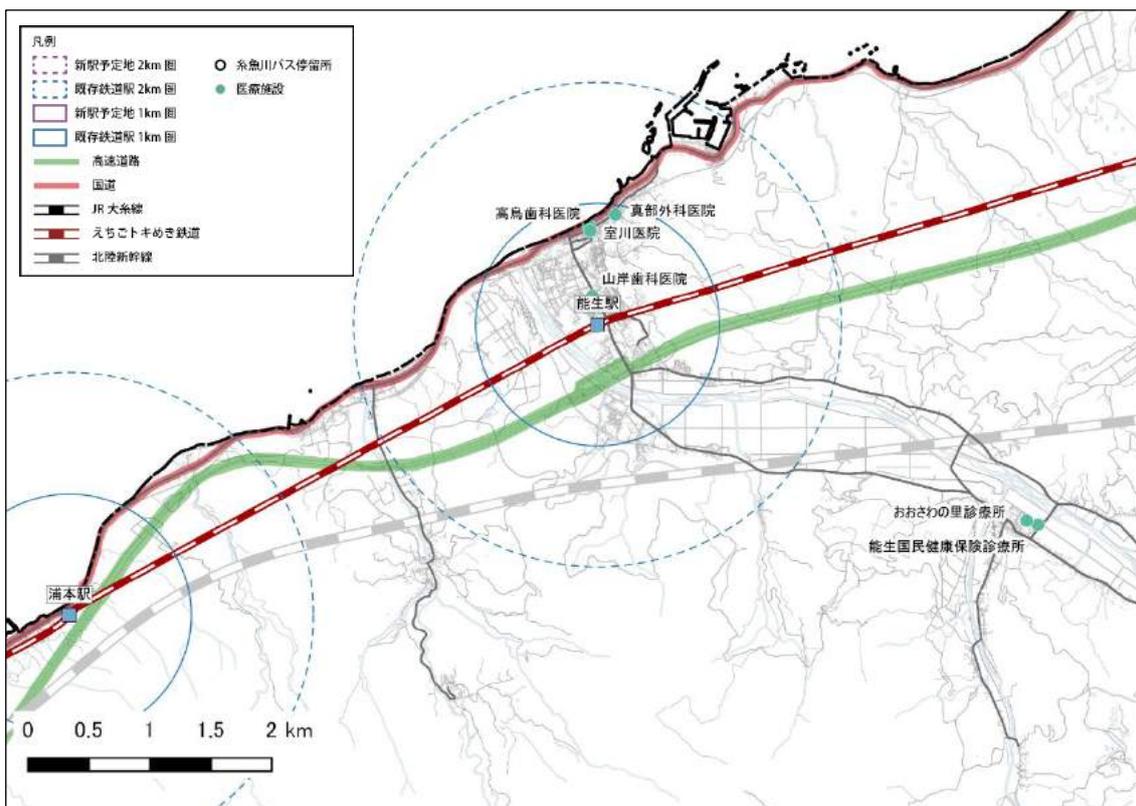
① 糸魚川地域の分布状況



② 青海地域の分布状況

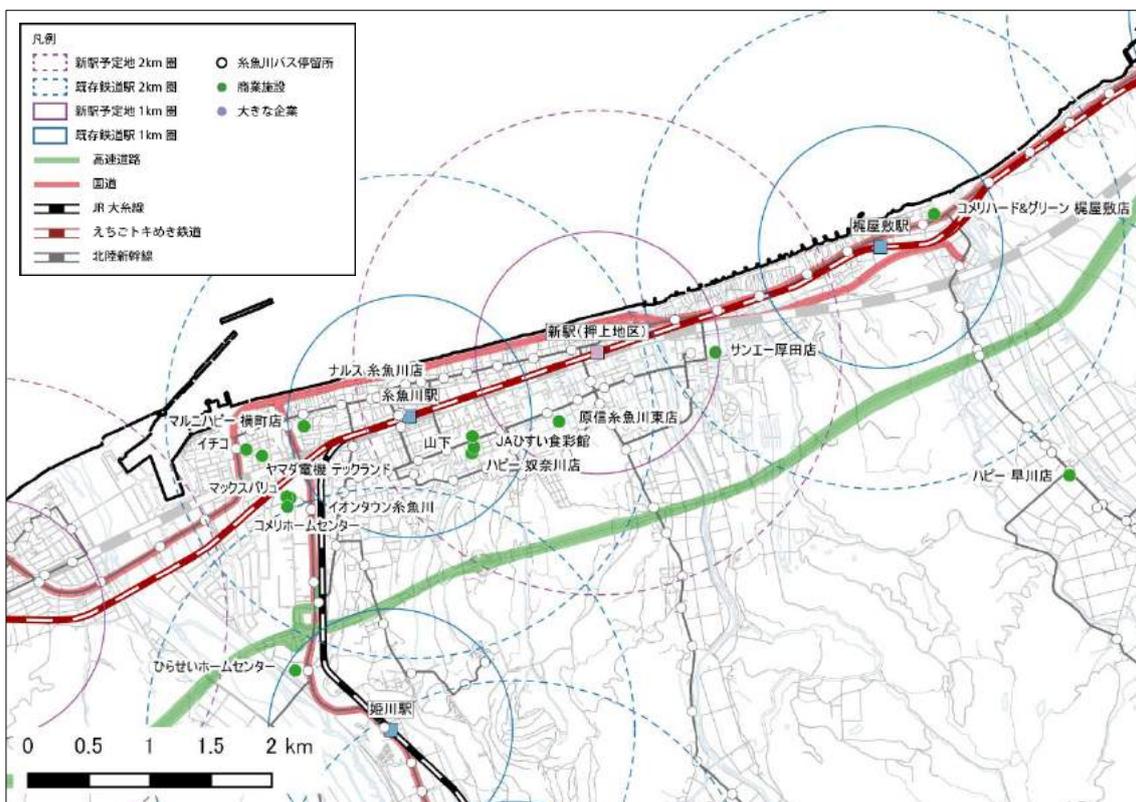


③ 能生地域の分布状況

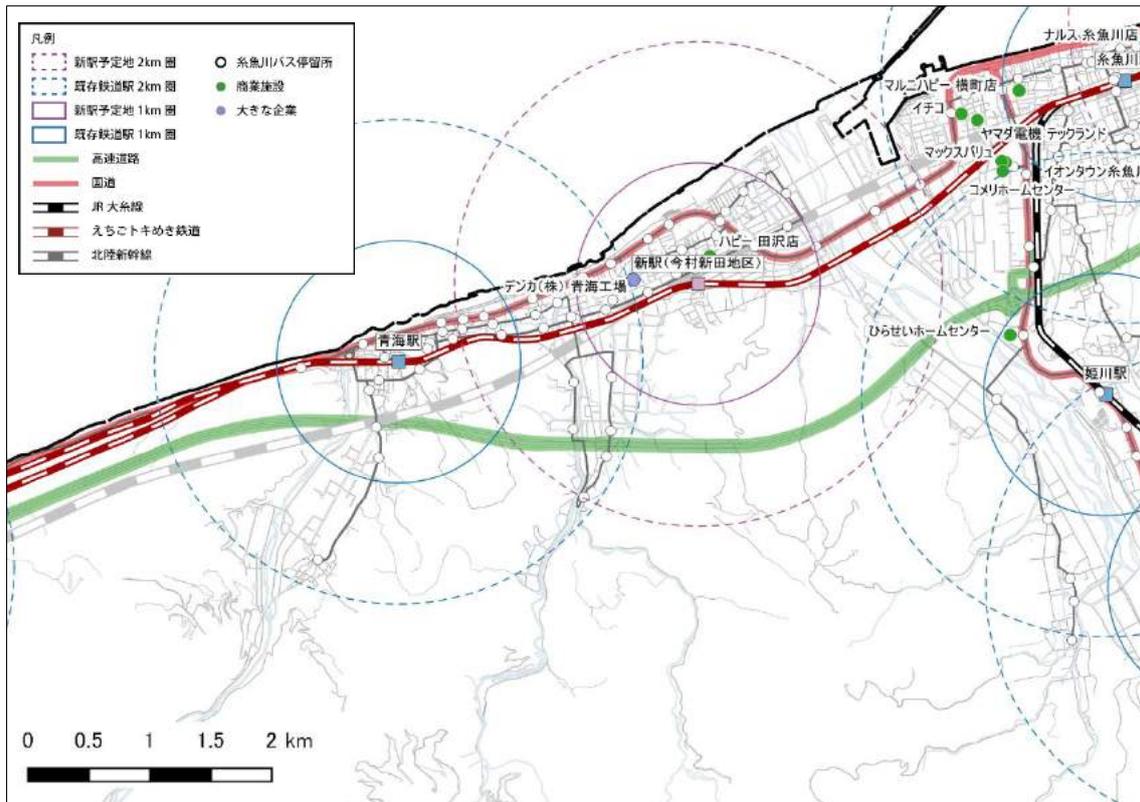


(2) 商業施設等

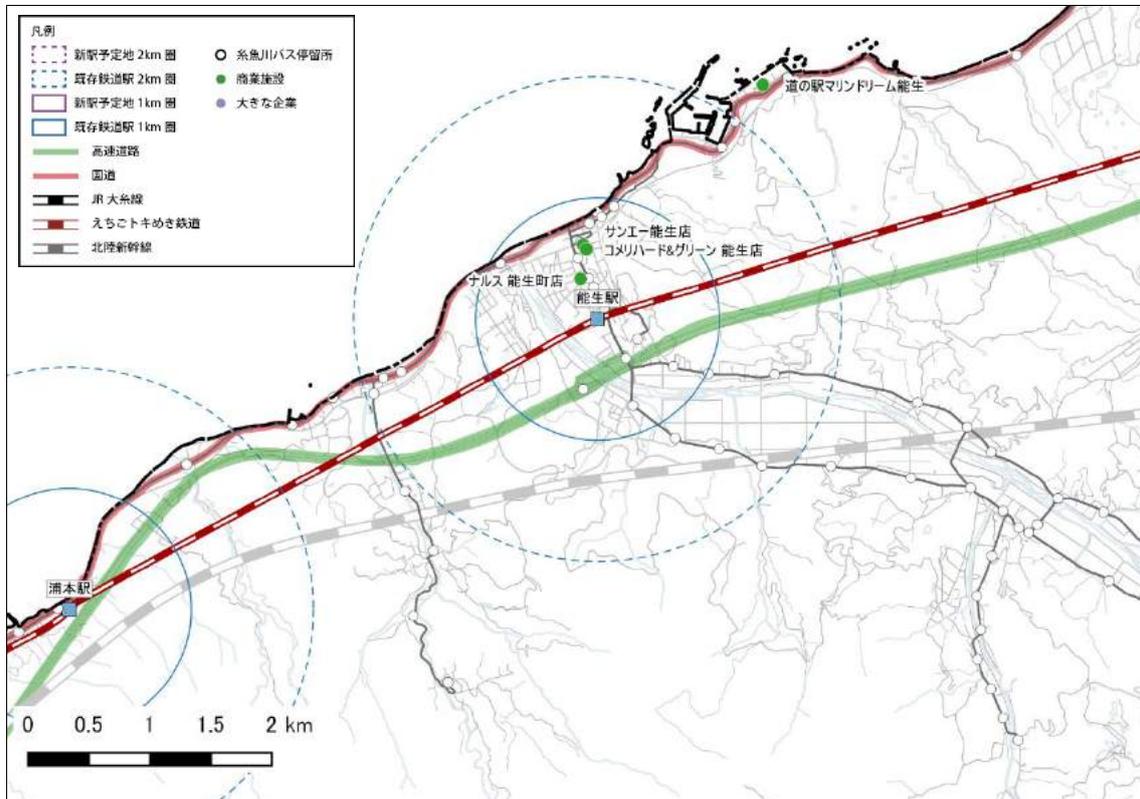
① 糸魚川地域の分布状況



② 青海地域の分布状況

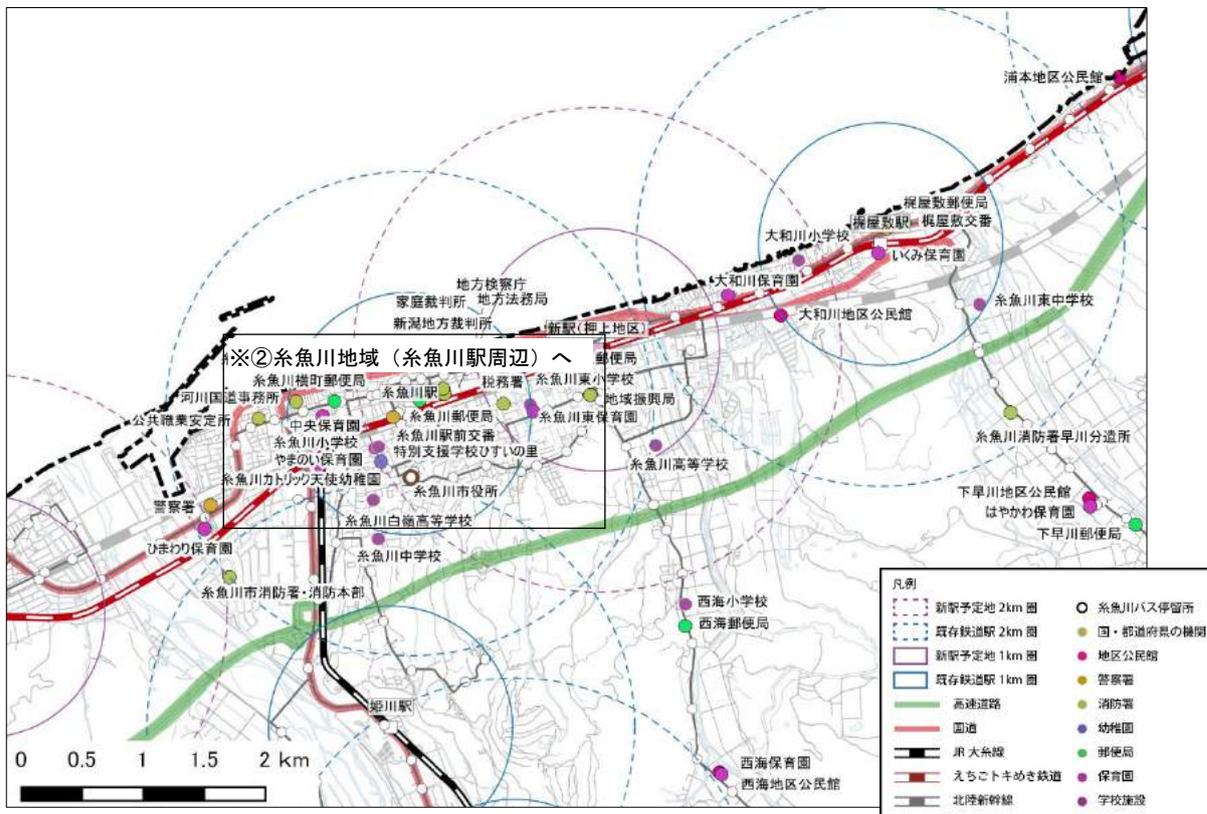


③ 能生地域の分布状況

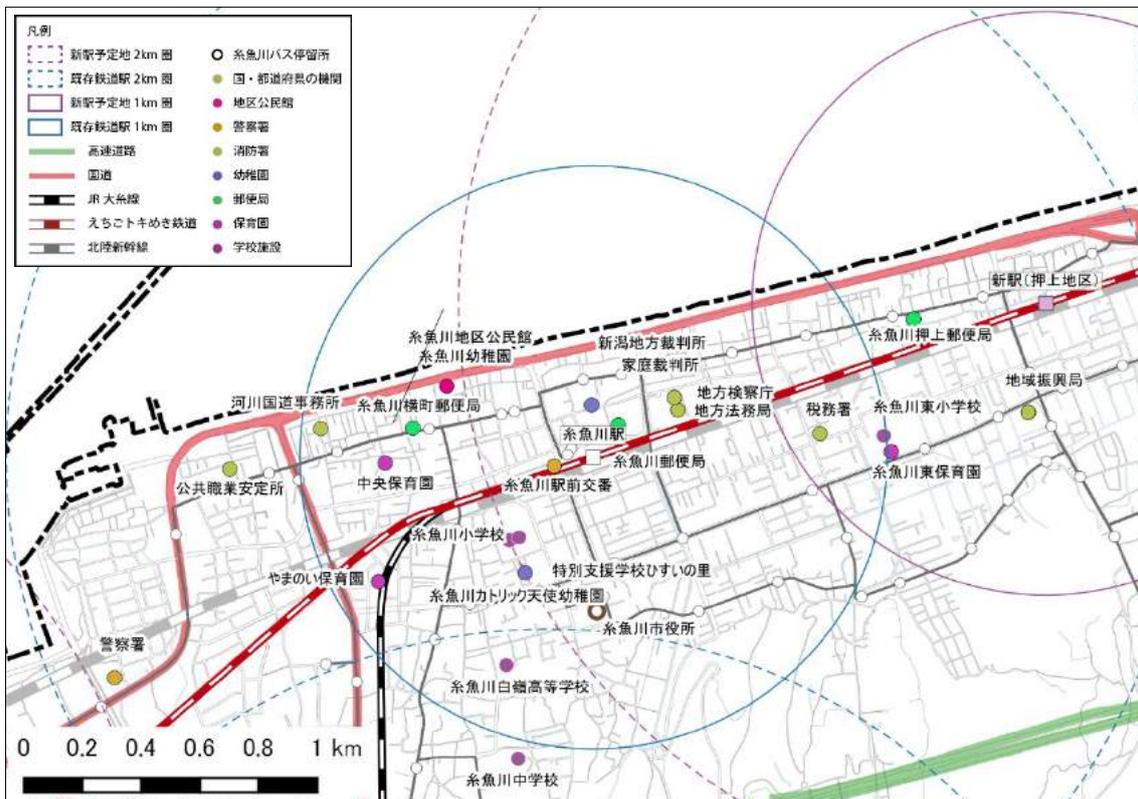


(3) 公共施設

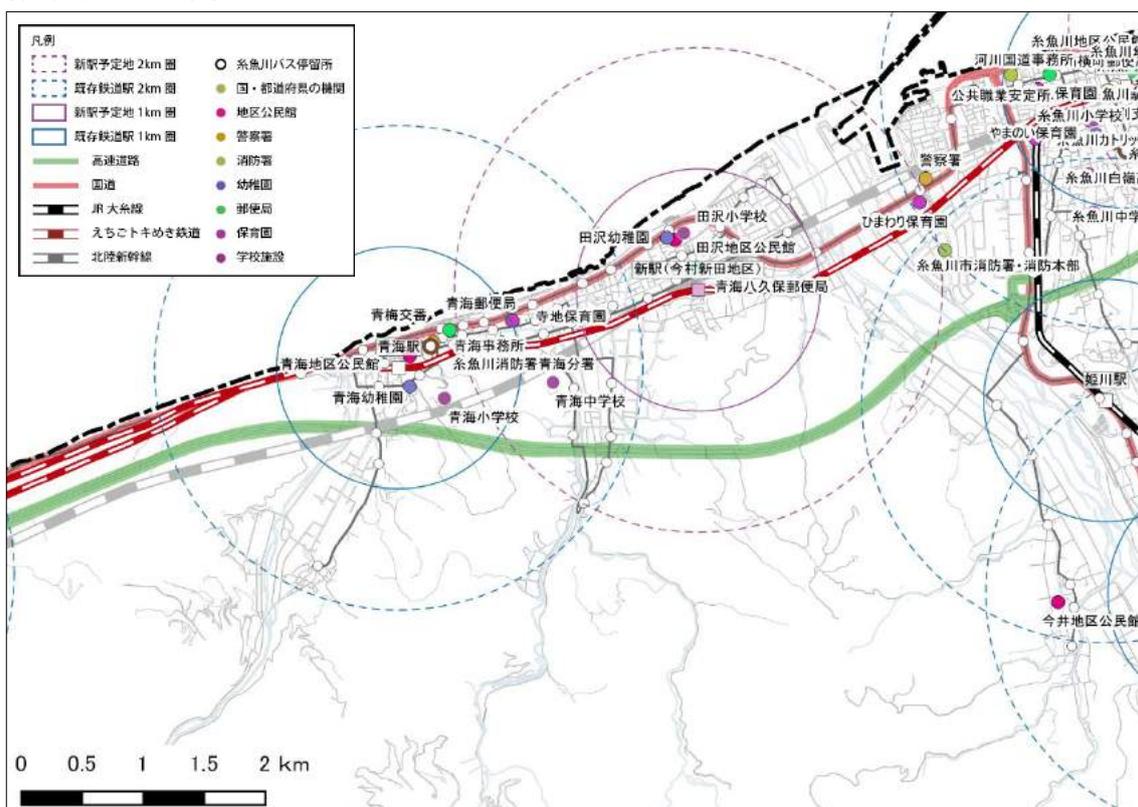
① 糸魚川地域の分布状況



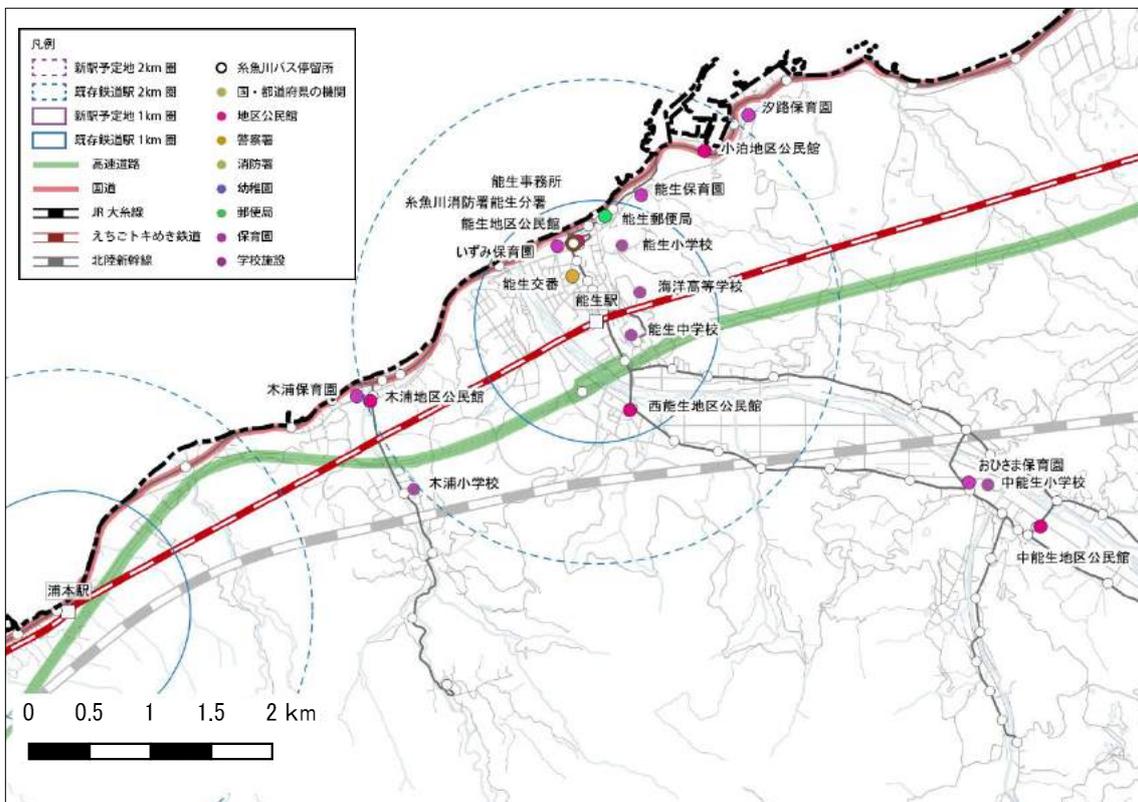
② 糸魚川地域（糸魚川駅周辺）の分布状況



③ 青海地域の分布状況

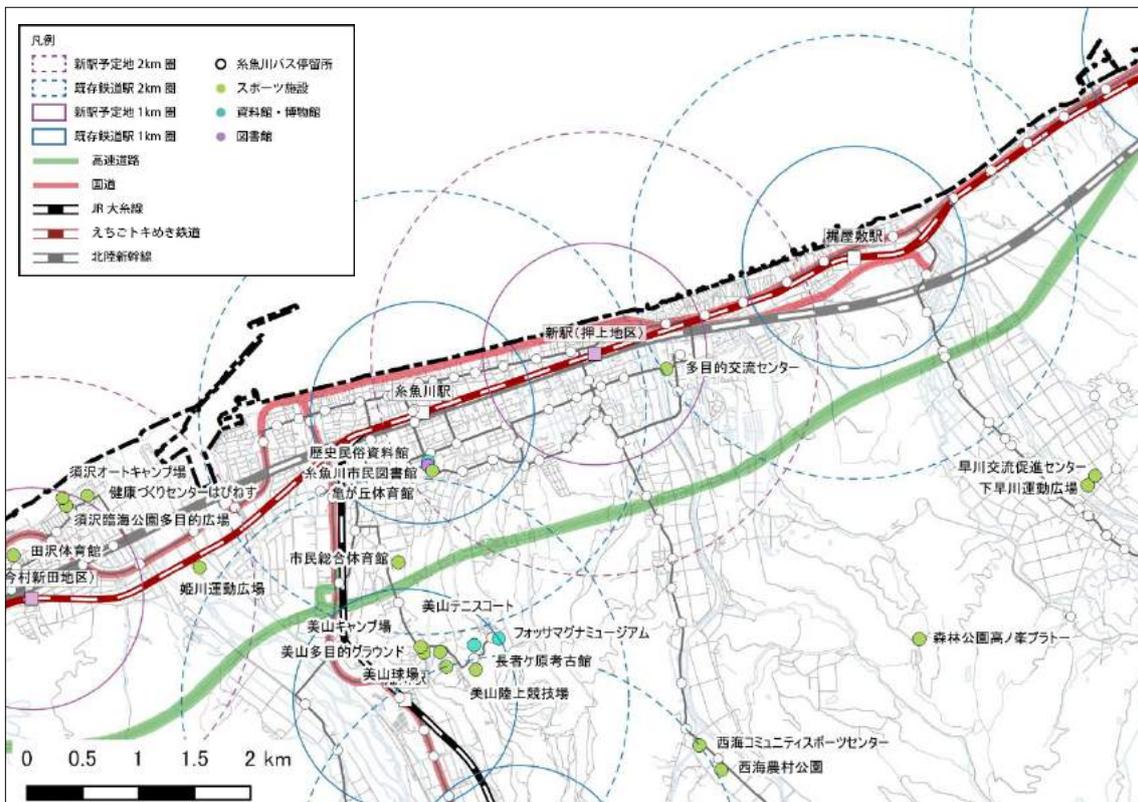


④ 能生地域の分布状況

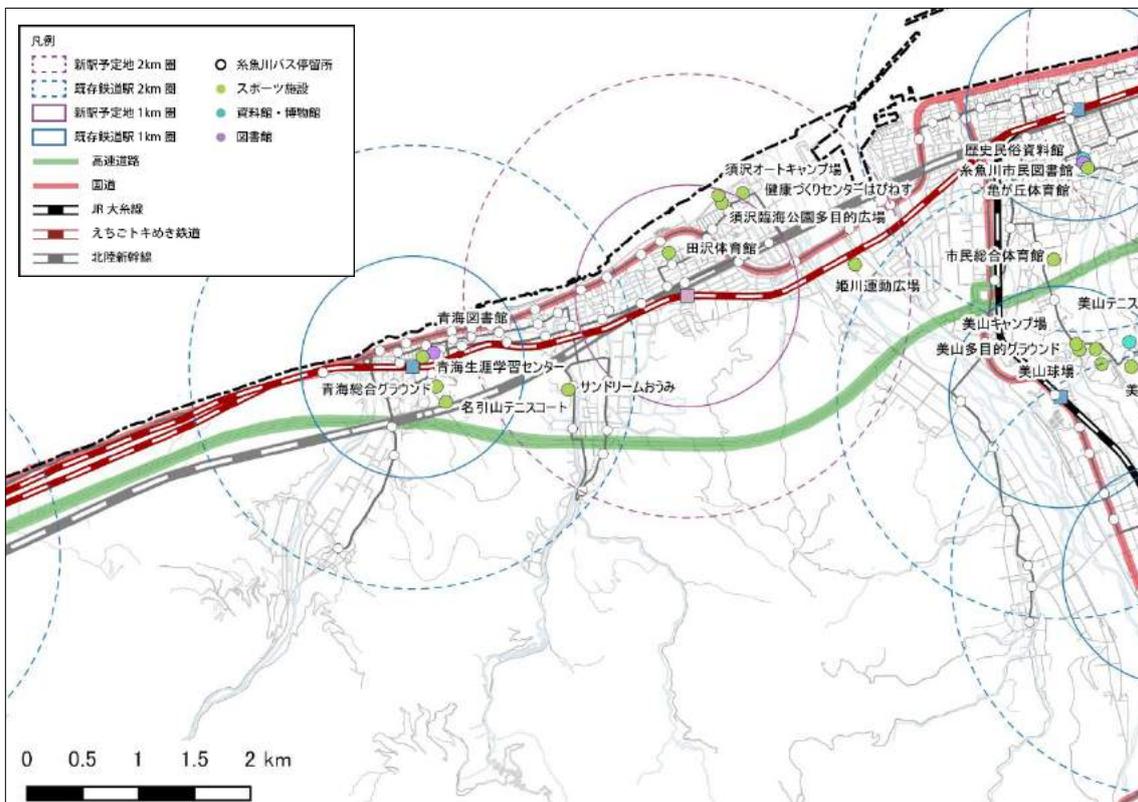


(4) 文化施設、スポーツ施設

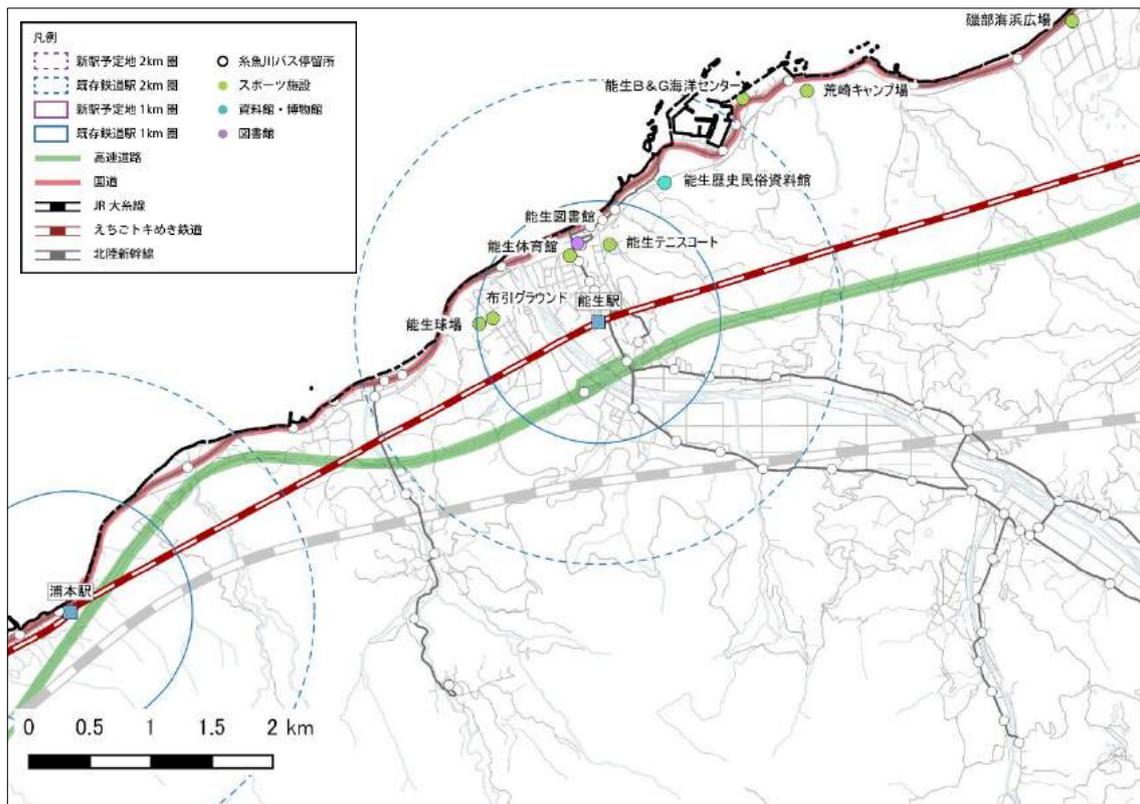
① 糸魚川地域の分布状況



② 青海地域の分布状況



③ 能生地域の分布状況

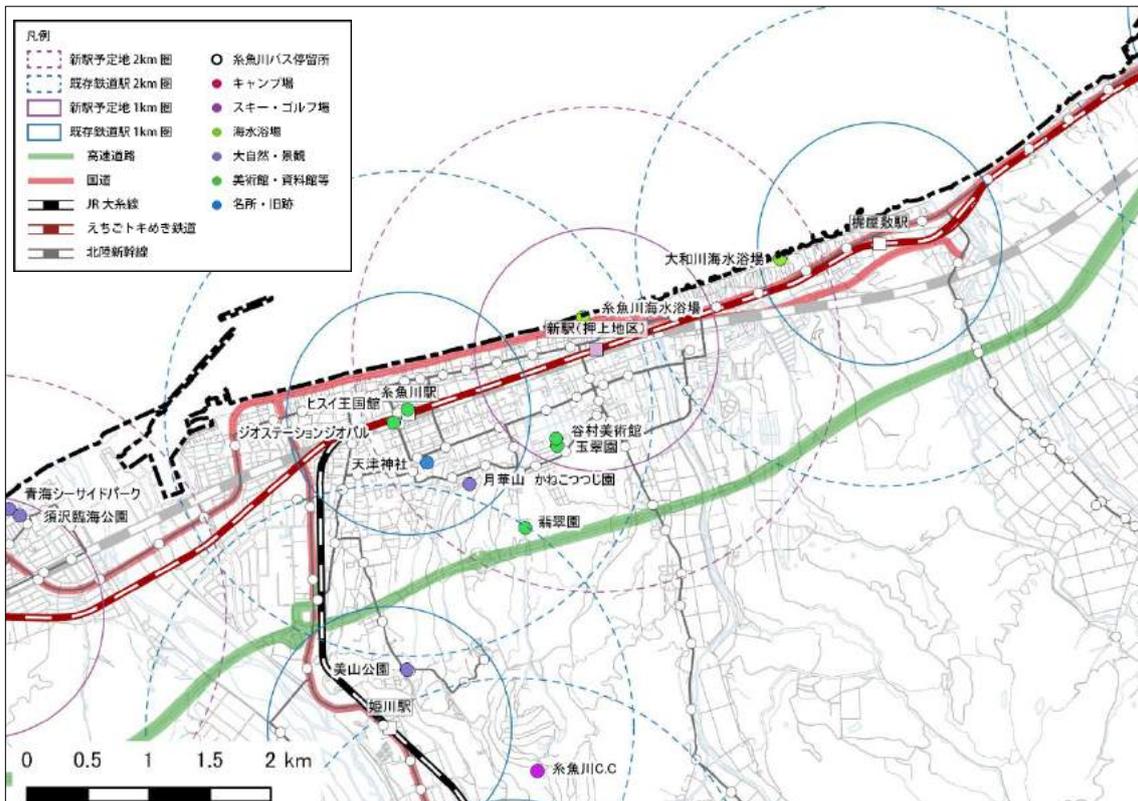


(5) 観光施設

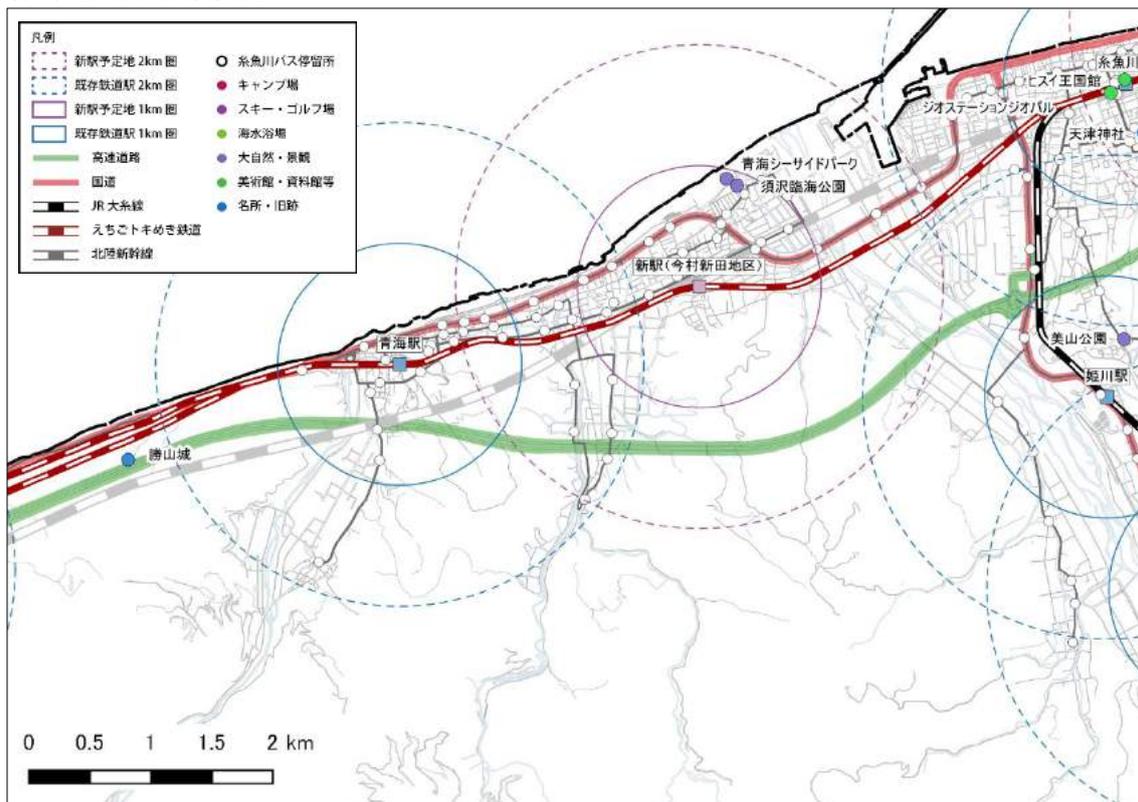
① 糸魚川ユネスコ世界ジオパークのジオサイトの位置



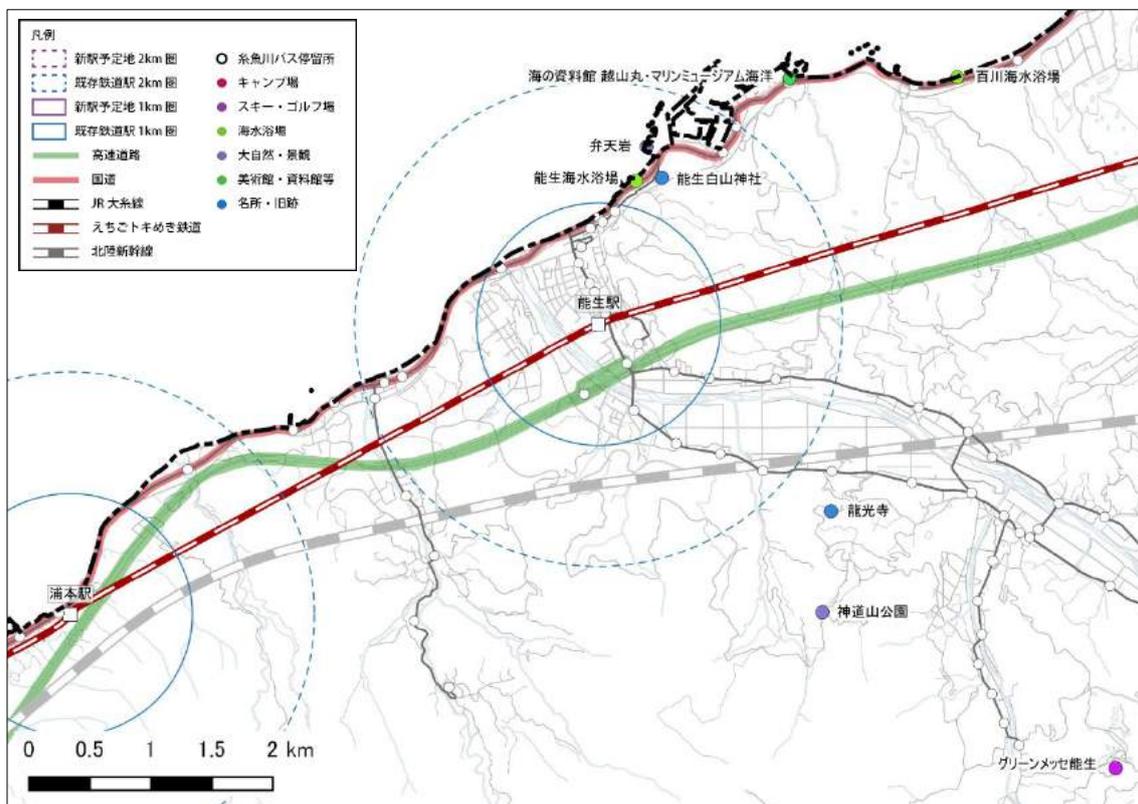
② 糸魚川地域の分布状況



③ 青海地域の分布状況



④ 能生地域の分布状況



6. 公共交通人口カバー率

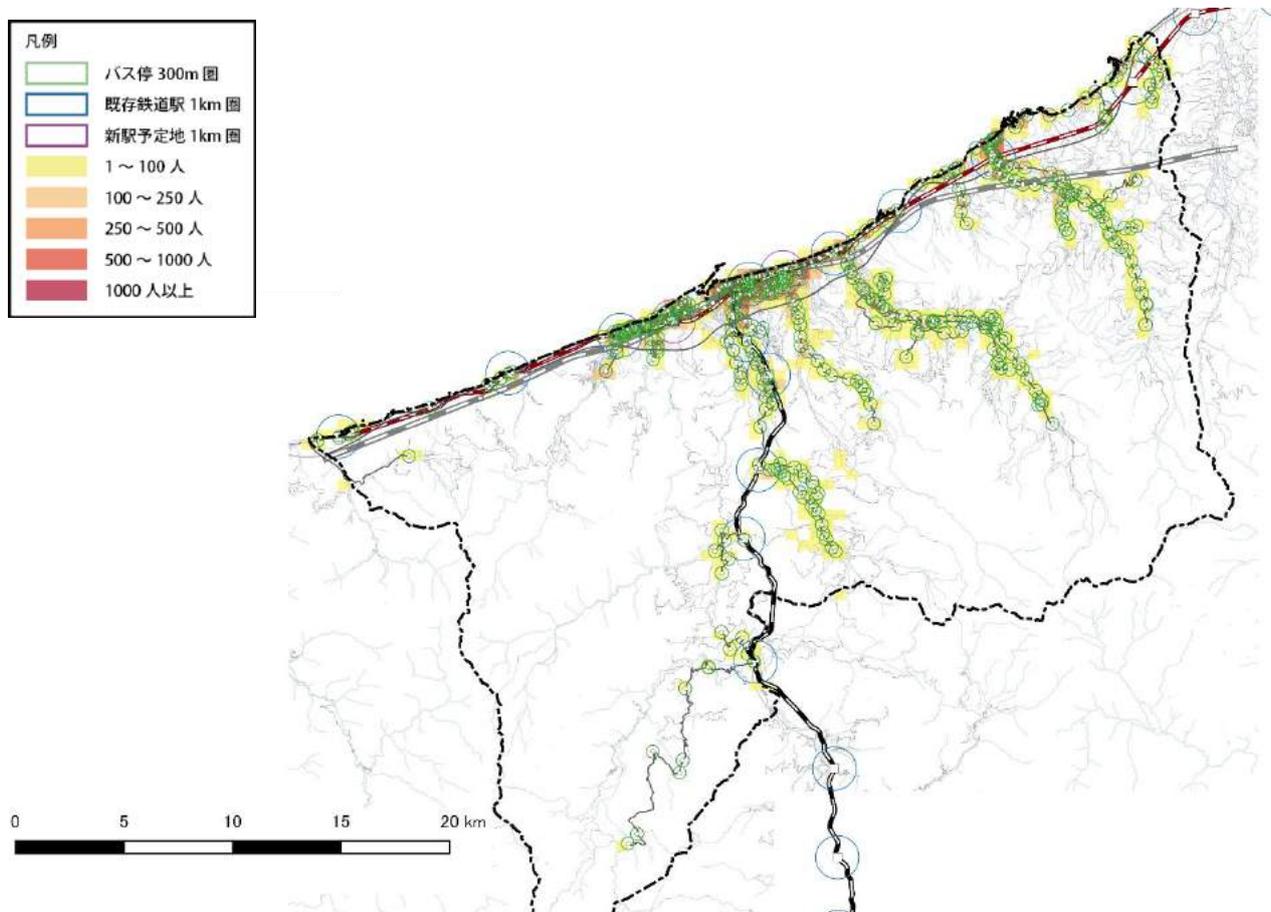
鉄道駅から 1000m、バス停から 300mを公共交通利用圏域として設定し、この圏域が市内人口をどの程度カバーしているかを算出した。

算出にあたり、平成 28 年 12 月時点の公共交通ネットワークを用い、市内人口の分布データは平成 22 年国勢調査結果を用いた。国勢調査の各メッシュの重心点を取り、重心点が公共交通利用圏域に含まれるかどうかでカバーされた人口を算出している。

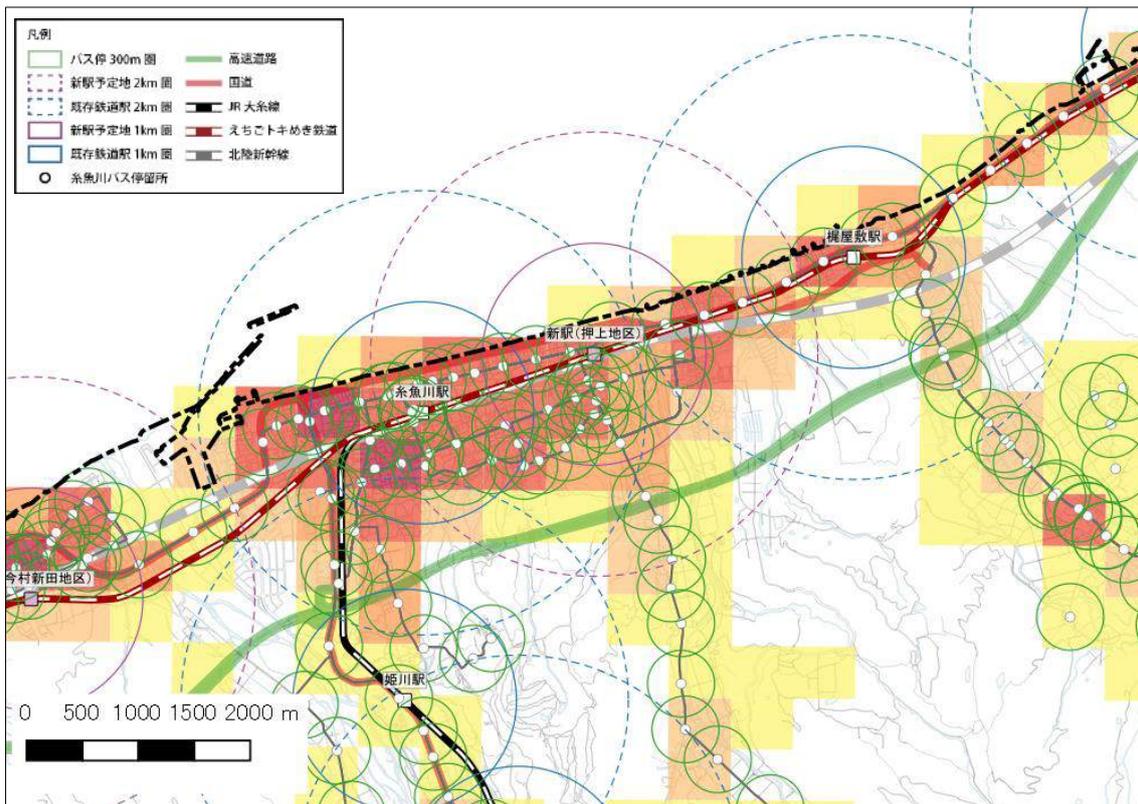
糸魚川市の公共交通人口カバー率は 92.6%となった。山間部等一部にカバーされていないエリアはあるものの、すでに市内の大部分が公共交通を利用できる状態であるといえる。

仮に現在の公共交通ネットワークのままえちごトキめき鉄道の新駅が設置された場合は、約 1%程度向上し 93.6%となる見込みである。

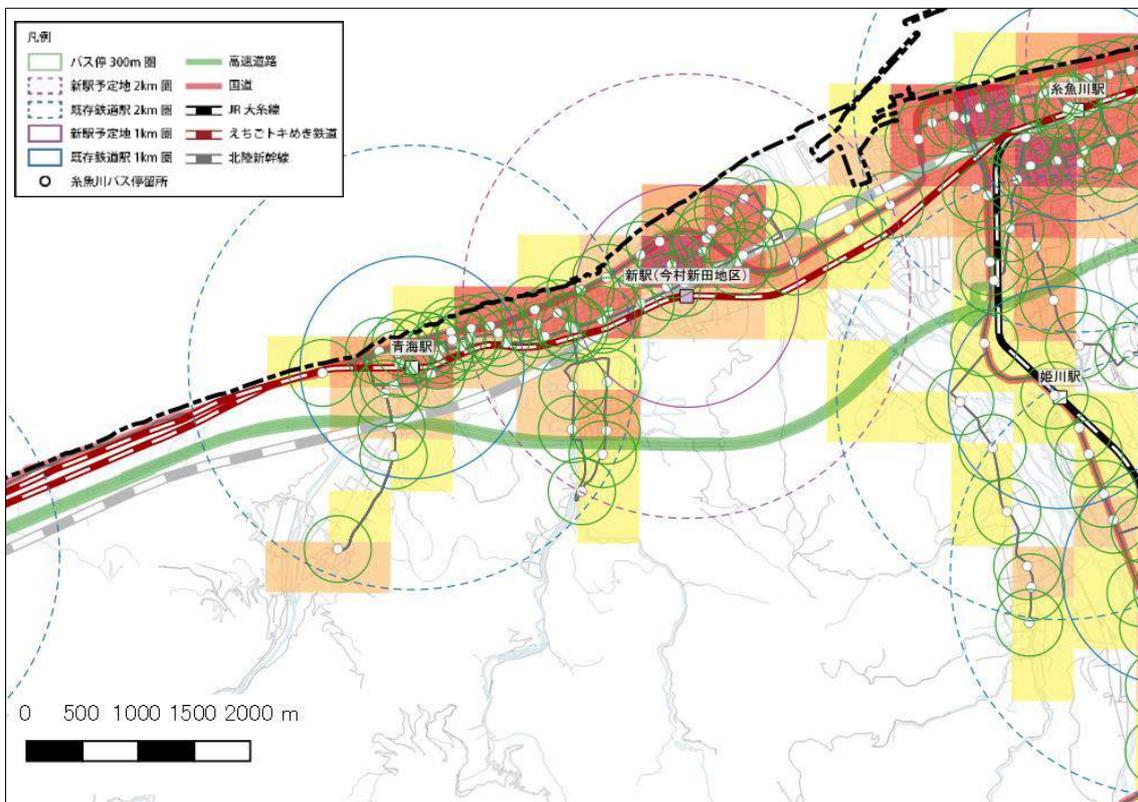
① 市全域の状況



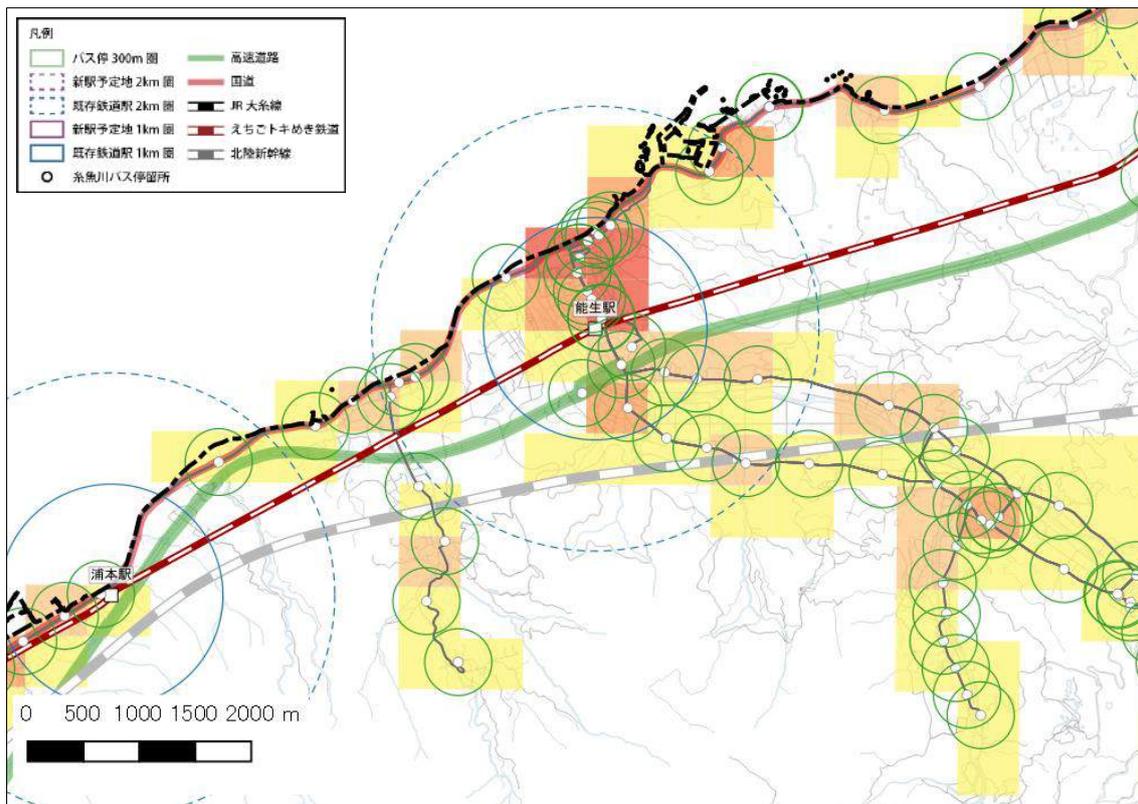
② 糸魚川地域の状況



③ 青海地域の状況



④ 能生地域の状況



7. 現況の総括

(1) 市の概況

① 人口

- ・平成27年国勢調査によると糸魚川市内の人口は44,162人であり、平成22年から3,540人減少している。第2次糸魚川市総合計画に基づく目標人口推計からも長期的な人口減少が見込まれている。平成27年度から平成52年度までの25年間で9,419人、21.3%の減少となる。
- ・高齢化率は平成7年より増加し平成17年に30%を超えており、平成27年国勢調査によると高齢化率は37.2%である。高齢化率は平成32年度の39.4%を増加のピークとして以降減少すると推計しているが、高齢化率は30%後半の高い水準で推移する見込みである。

② 地勢、人口分布

- ・当市は新潟県の最西端に位置している。北は日本海に面し、東は上越市、西は富山県朝日町、南は長野県小谷村と接している。
- ・市内の人口分布は、えちごトキめき鉄道日本海ひすいライン沿線及び国道8号線沿線にあたる日本海沿岸の平野部に人口が集中するほか、日本海沿岸から南に向かって伸びる谷筋に人口が分布する。
- ・市街地から離れた谷筋の山間部や市街地から外れた海岸部では人口が低密な地域が広がる。

③ 市内主要道路網

- ・市内の主要道路網として日本海沿いを国道8号が横断、一級河川姫川沿いに国道148号が縦断している。これらは当市と近隣市町村を結ぶ路線として重要な役割を果たしている。

(2) まちづくりをめぐる新たな動き（糸魚川市駅北大火）

- ・平成28年12月に発生した「糸魚川市駅北大火」では、糸魚川市中心市街地の約40,000㎡を焼失、147棟が焼損、120世帯が被災という多大な被害をもたらした。国内では過去20年で最悪の延焼火災となった。
- ・被災地の復旧と復興にあたり「糸魚川市復興まちづくり計画」の策定が進められている。

(3) 市内公共交通網

① 鉄道（在来線）

- ・平成27年3月に北陸新幹線糸魚川駅及びえちごトキめき鉄道日本海ひすいラインが開業した。
- ・市内には能生地域2駅、糸魚川地域8駅、青海地域3駅の合計13駅が存在している。
- ・えちごトキめき鉄道日本海ひすいラインは、海岸沿いに市内を横断し、東は上越市、西は富山県朝日町につながる。JR大糸線は、一級河川姫川沿いに市内を縦断し、南は長野県小谷村につながる。
- ・糸魚川駅発新潟駅行きの快速列車は、平成29年3月ダイヤ改正をもって運行取りやめとなった。

- ・ j R 大糸線の利用者数は、近年 30～40 人/日程度で推移している。
- ・ えちごトキめき鉄道（北陸新幹線開業前は JR 北陸本線）の利用者数は減少傾向にあったが、新幹線が開業した平成 27 年度は増加に転じている。
- ・ えちごトキめき鉄道では、平成 28 年 4 月より観光列車「雪月花」が糸魚川－妙高高原間で運行を開始した。
- ・ 市内鉄道駅の多くでは、移動経路や駅設備のバリアフリー化が不十分な状況にある。

② 鉄道（北陸新幹線）

- ・ 北陸新幹線糸魚川駅の開業に伴い、市内観光地を訪れる観光客は増加傾向にある。

③ 路線バス、高速バス

- ・ 市内の路線バスは糸魚川バス株式会社が市内 16 路線を運行し、頸城自動車株式会社が能生地域から上越市までの 1 路線を運行している。また、期間限定で糸魚川駅から蓮華温泉までの白馬岳登山バスを 1 路線を運行している。
- ・ 路線バスは糸魚川駅または糸魚川総合病院等の市内拠点に向けて各地域から運行しているため、糸魚川市街地で複数の路線が重複している。
- ・ 生活圏と市街地を結ぶ路線に加えて、焼山温泉、笹倉温泉、中尾長者温泉、フォッサマグナミュージアム等、市内の温泉地や観光地を結ぶ路線を運行している。
- ・ 路線バスの利用状況は各路線で大きく異なるが、全体として利用者数は減少傾向にある。
- ・ 高速バスでは、糸魚川駅前と新潟駅前を結ぶ 1 路線を 1 日 2 往復毎日運行している。

④ コミュニティバス・乗合タクシー

- ・ 糸魚川市におけるコミュニティバス（定員 11 人以上）、乗合タクシー（定員 10 人以下）は、鉄道や路線バスが行き届かない地域や中山間地域等に暮らす住民が都市機能を享受するための移動手段として運行している。現在糸魚川市では 13 路線が運行している。
- ・ 運行頻度はそれぞれ週 1 回の運行である。料金はすべての路線で 1 回 100 円で利用することができる。
- ・ 運行形態は定時運行、一部予約制、完全予約制があり、路線や地域によって異なる。

⑤ 公共的交通（市が無償で人の輸送を行うもの）

- ・ 小中学校の遠距離通学において、一部の地区ではスクールバスを運行している。
- ・ 青海地域では、市町合併前から地域内に医療機関がない歌・外波・市振・玉ノ木地区において医療機関に向かう無料の送迎車を週 1 日運行している。
- ・ 能生地域では、市町合併前から能生地区から中尾長者温泉への利用者の輸送手段として、無料のふれあい送迎を週 1 日運行している。
- ・ 市内全域を対象に福祉有償運送が運行されている。

（4）公共交通の確保にかかる補助金

- ・ 平成 23 年度から公共交通の確保にかかる補助金は年々増加しており、平成 27 年度には路線バスとコミュニティバス・乗合タクシーを合わせ 1 億 4 千万円以上の補助額となっている。

- ・コミュニティバス・乗合タクシーは平成23年度より補助金を受けて運行しており、補助額は1千万円程度で推移している。

(5) 公共交通利用促進事業

- ・利用促進事業として子ども、高齢者、障害のある方の外出支援等を目的に路線バス及びタクシー利用における費用負担軽減の取組を行っている。
- ・体験型の利用促進事業として、子どもや高齢者を対象としたバス教室の開催や、イベント等に合わせたワンコインバスの実施、路線バス啓発・利用促進資料「みんなでバスにのるまいか〜」の作成・配付、バス利用に関して乗車券の出張販売や直接バスの利用について問合せ等ができる路線バス出張サロン「よるまいか〜」の開催等を行っている。

(6) 既存アンケート

- ・平成25年度に市が行った高齢者生活調査において、75歳以上の高齢者の方に「外出について」ヒアリングを行った結果、「車やバスで外出している」と回答した方が回答者の9割を占める。最も多い外出手段は「路線バス」25.8%、次いで「自分が運転する車」23.1%である。
- ・路線バスを「利用しない理由」として最も多いものは「路線バス以外に便利な交通手段がある」60.9%である。次いで「バスの段差がきつくて乗り降りできない」が10.1%である。
- ・「利用しやすい時間帯に路線バスが運行していれば利用しますか」の問いに対し「利用しない」と回答した方が約8割を占めた。

(7) 交通関連施設・観光等・その他

- ・北陸新幹線糸魚川駅利用者に対して、新幹線パーク&ライドを実施している。北陸新幹線利用時に糸魚川駅に隣接する駐車場を利用すると最大4日間利用料金が無料になるサービスであり、利用者数は年々増加している。
- ・北陸新幹線糸魚川駅の開業に伴い観光客等の来訪者が増加傾向にある一方、宿泊客数は減少している。
- ・医療施設、商業施設、公共施設は糸魚川地域へ集積している。青海地域にはクリニックや診療所等小規模な医療施設はあるものの総合的な医療を受けることができる施設はない。能生地域は全体的に施設数が少ないものの、医療施設や商業施設、公共施設等が整っている。

(8) 公共交通人口カバー率

- ・当市の公共交通人口カバー率は平成28年12月時点で92.6%であり、山間部等一部にカバーされていないエリアはあるものの、すでに市内の大部分が公共交通を利用できる状態である。